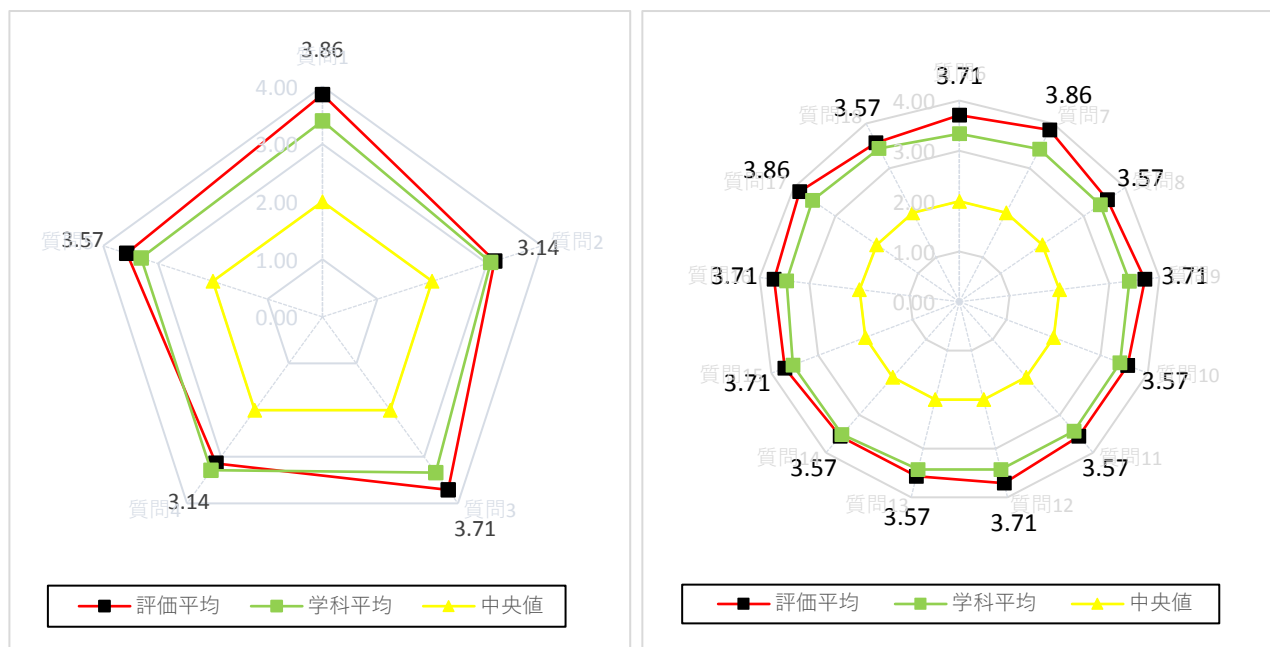


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

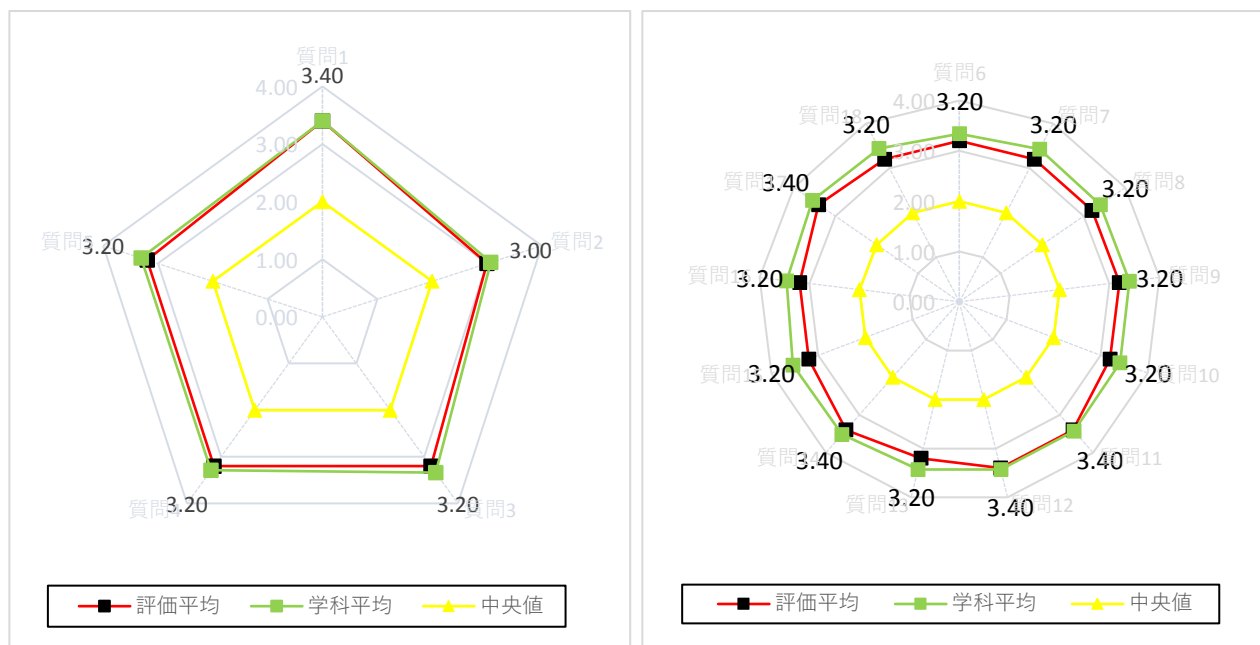
ほとんどの項目が学科平均より高く、満点に近いものもあった。少人数での担任制なので、大学生としての導入の科目として適した内容であったといえる。今年度は、新しいテキストを用いて行ったが、これは教員にとっても使いやすく、学生にとっても分かりやすかったのではないかと思います。特に、大学生としての自覚やモチベーションをさらに伸ばすようなに役立ったと思われる。また、昨年度までは修学ポートフォリオを学生に課していたが、今年度はこれを評価に入れないようにした。これによって、教員は時間に余裕をもって学生と接することができるようになった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、昨年用いたテキストにて導入授業を行う。今年度は、修学ポートフォリオの必修化をやめたので、次年度は個人面談を実施し、個別の学生のケアを行う予定である。また、教員間の情報の共有化を図り、学生の学修支援を行っていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎（初年次教育含）	11名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

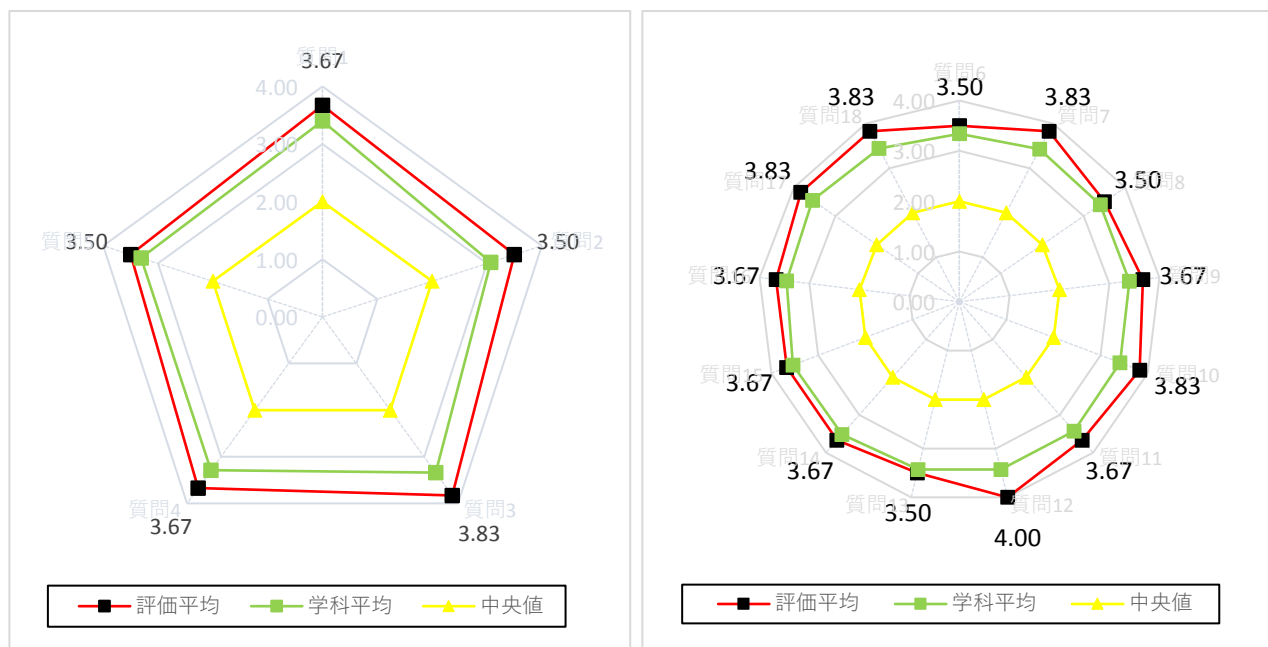
あすなろう I 基礎（初年次教育含）の授業評価においては、授業内容・方法および教員の対応の項目において、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、現在のあすなろう I 基礎において実施している授業内容が本当に学生にとって良いものであるのか、他にもっと必要なものがあるのではないかと考えさせられることもしばしばあるので、授業内容そのものの改善の余地があると思われる。

（３）次年度に向けての取り組み

あすなろう I 基礎は、自主性・主体性を培う授業であるので、必ず一人1回は自身の意見を発表する機会を設けるなど、授業の内容をより自主的な学習を促す工夫を重ね、学生自身との双方向的なやりとりやがさらに高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

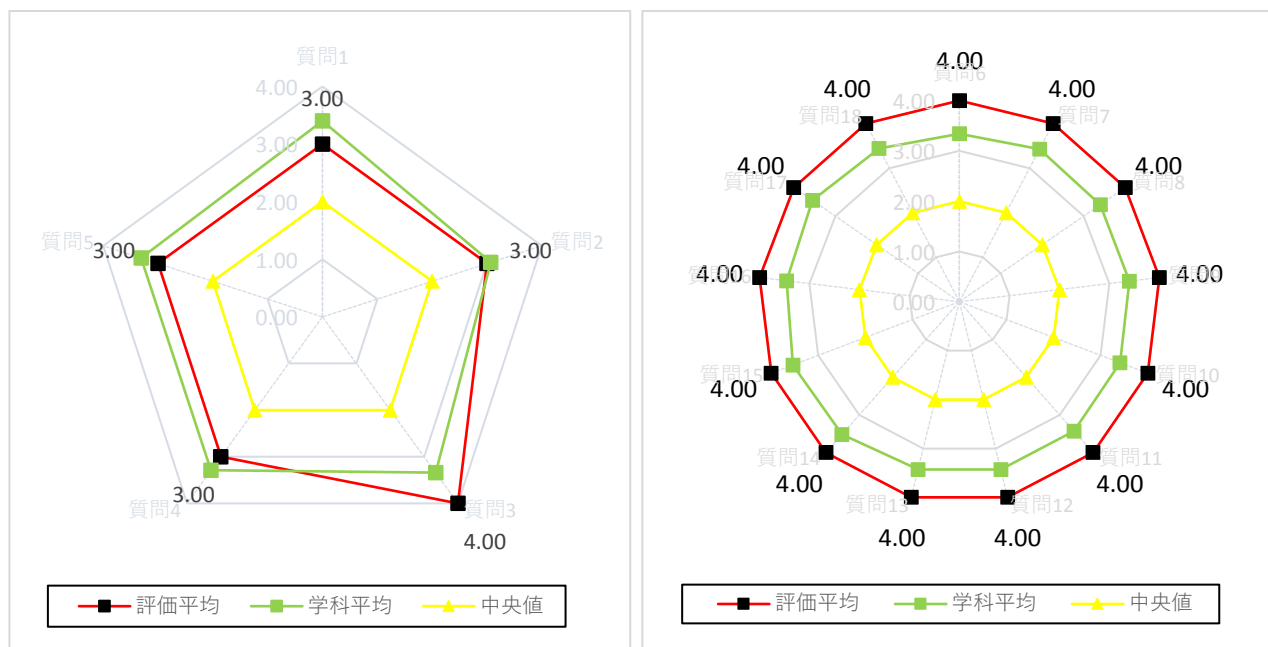
あすなろう I 基礎の授業評価結果の分析においては、質問1から18までの全てにおいて、学科平均より0.5点程度高いという結果となった。特別に低い項目は無かった。学生はほぼ満足すべき内容であったと感じている。基本的な授業の進行は十分に行っていたと思われる。本授業は本学への入学生を社会へ送り出すための最初のステップとして、社会人としての常識的なマナーやスキルを身につけさせることにあると考えられる。また、本学科での勉強への取り組みの姿勢を身につけさせることも重要である。学生は様々なボランティアを体験し、この授業の意義を感じてくれたことが良い評価につながったのであろうと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価が良かったことから、次年度に向けても同じような取り組みで良いと考えられる。しかし、多少の授業内容の変更が計画されているので、新規の内容に対しての対応が必要である。あすなろうの授業においては、授業内でのやり取りだけでなく、ポータルサイトを通じた学生との双方向のやり取りも大切である。これはポータルサイトのシステムや操作、一年間の内容も全体を把握できているので、それぞれの授業において、本授業の目標を目指して授業を進めていきたいと思う。新入生は新しい環境の中でさまざまな不安や壁にあたることもあると思うが、学科のカリキュラムの進行に沿ったアドバイスを授業の中でしていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろうⅡ 応用（地域課題）	4名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

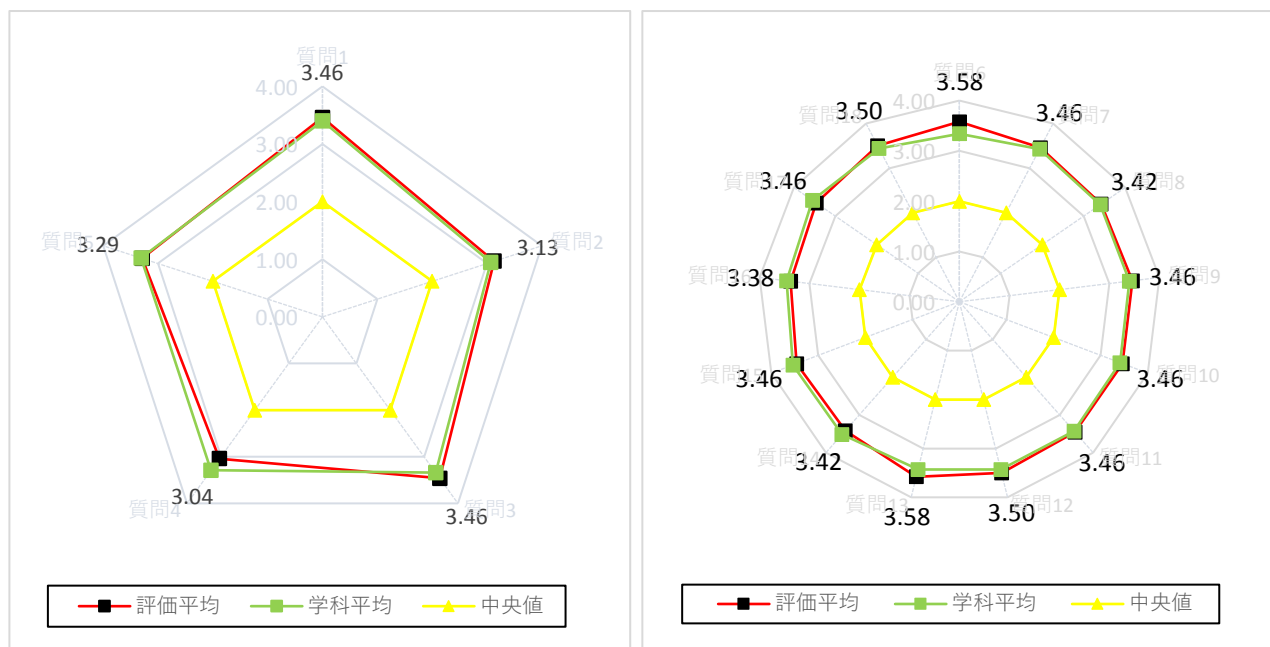
この科目は、地域の課題に対して自分たちで企画し、課題解決するという科目である。今回は、小学生が地元の食材や料理に興味を持ってもらうよう、小学生に対してクリスマス料理を教えるという企画をし、チラシ作り、チラシ配りなども自分たちで行った。予想を超える参加者で大変だったが、学生たちは自分たちの役割をしっかりとこなし、大好評であった。学生たちは、達成感があったと思われる。しかし、今回の授業評価では、自己評価が低かった。教員に対する評価は非常に高かった。振り返りの授業でも、もっとこうすればよかったとの反省の言葉を述べていたことから、今回の経験を今後の活動に活かされると思う。

（３）次年度に向けての取り組み

今回は、企画を決めるまでにかなり時間がかかった。もう少し早い段階で決めて、企画の準備に時間をかけるようにしたい。教員もかなり細かいことに時間を取られたので、どこまで学生にやらせるかを事前に決めておくなど、次年度に活かしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		生活支援	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の回答率が8名と低かった。また、リハビリテーション学科の受講生はいなかった。本科目は複数教員で対応しているが、「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」「授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」が低値であった点は、素直に反省すべき点であると考えられる。

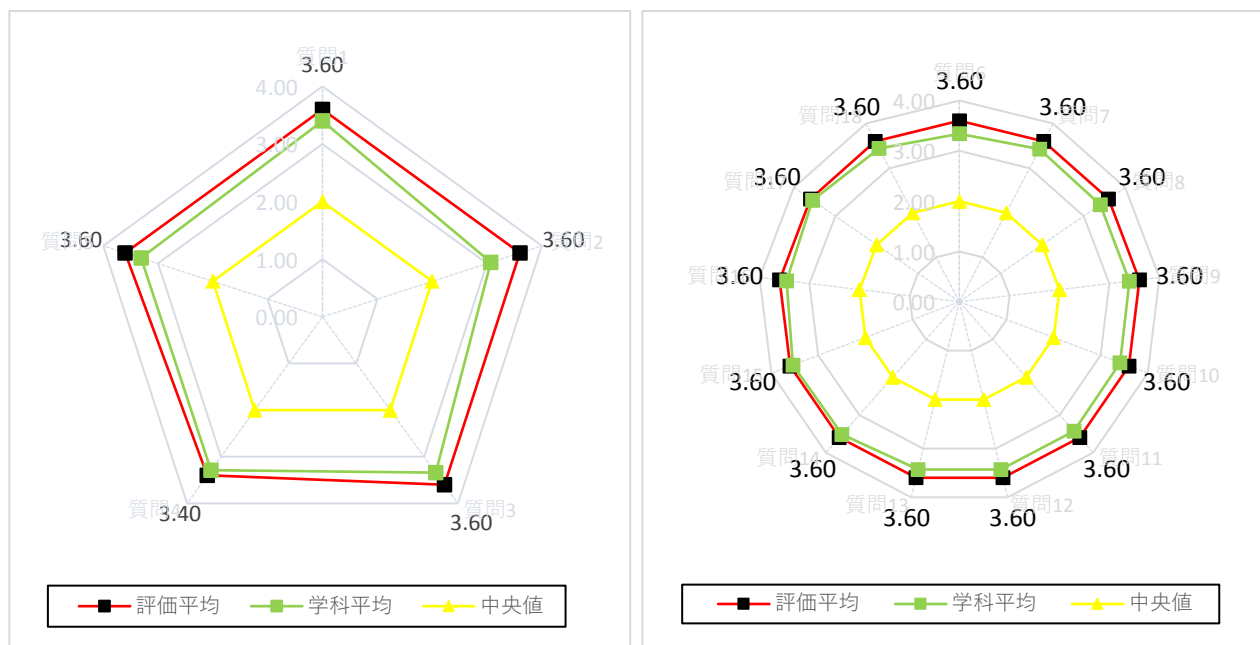
この授業を総合評価については、88% (7/8名) がよいと判断した。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外実習であり複数教員が担当するため、担当教員間の対応のばらつきがある。今後は、教員間の連携を密にし授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。次年度は上記の課題が改善できるよう対応の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		地域連携	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

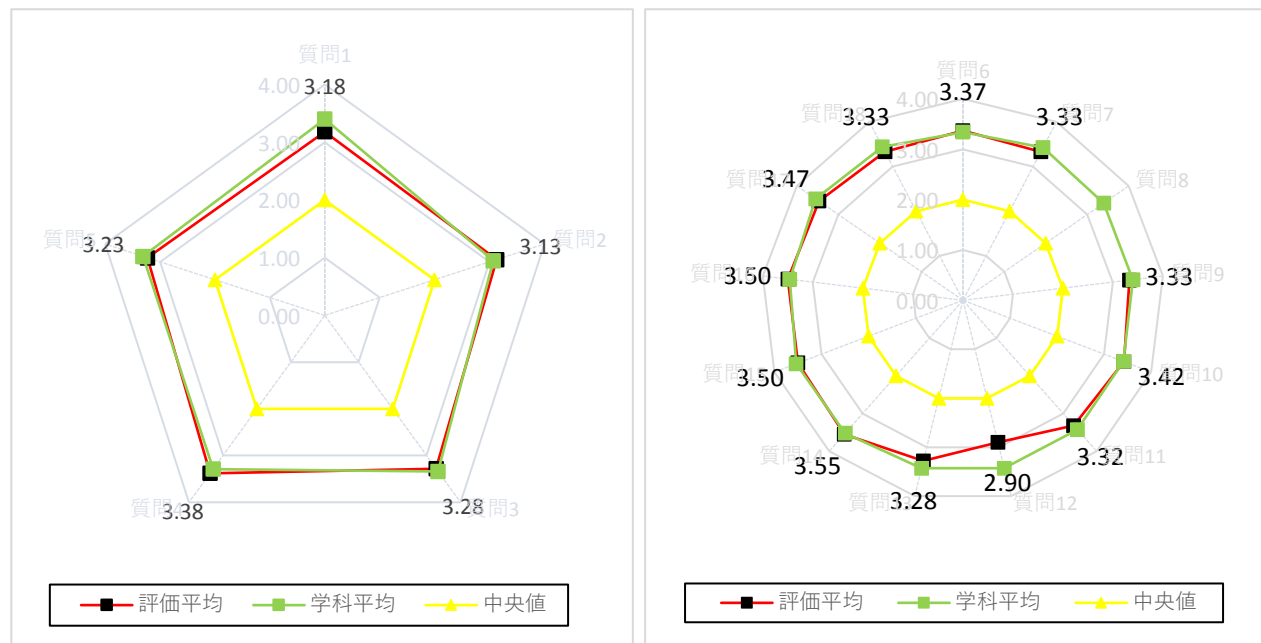
授業評価の回答率が1名と低かった。また、リハビリテーション学科の受講生はいなかった。回答者は1名であったが、高評価であったことはよいと判断した。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外実習であり複数教員が担当するため、担当教員間の対応のばらつきがある。今後は、教員間の連携を密にし授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。次年度は上記の課題が改善できるよう対応の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		心理学入門	137名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

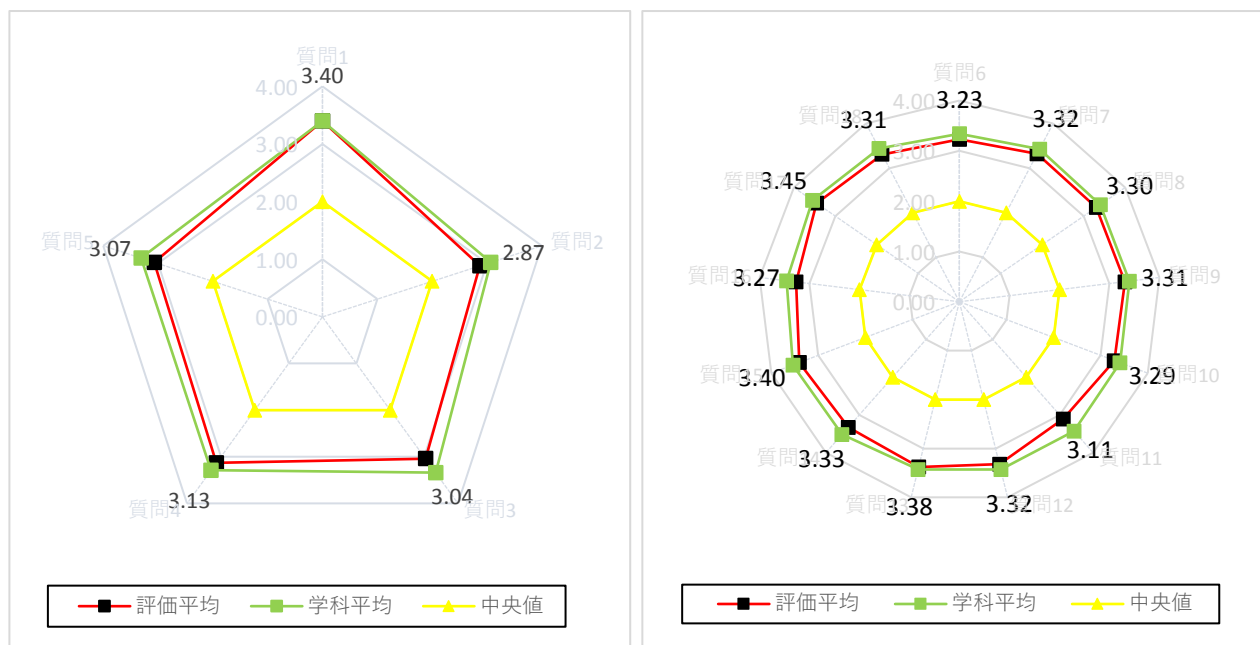
最終試験では、学んだ内容を各自の講義ノートを手がかりに、設問に文章によって解答することを求めている。最終回の授業では、1回目から15回目までの講義内容を受講生とともに振り返り、授業テーマ（テキストでは章）ごとに想定される設問を伝えた。また、想定の設定問への解答例を示し、解答の仕方のポイントを把握するように促した。また、授業の最後に当日の講義に対する気づき・意見などをA5判の用紙に記述させ、講義の要点に触れた何人かの記述を講義の復習を兼ねて次回の講義の最初に紹介した。にもかかわらず、合格点に達しない受講生が少なからず存在した。指導の吟味・改善が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義内容の理解に対する指標は、自己の理解に基づいて、重要な概念を紹介できる、法則や得られた知見の意味などについて記述できることと捉えている。指標の再考が必要かもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		現代社会と倫理	187名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

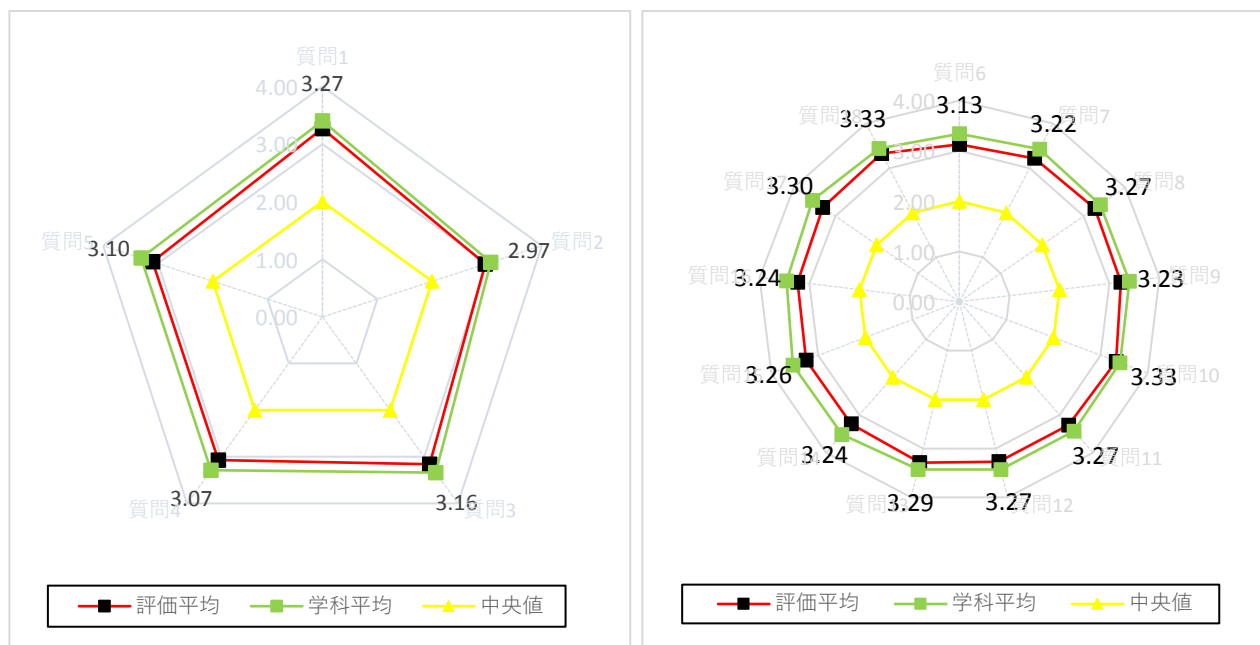
ほぼ学科平均値に近い評価であったが、教科書・配布資料に関して低位であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書を使用しない授業形態であるが、知識の定着を促すために資料等の配布を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		人間論と現代思想	201名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

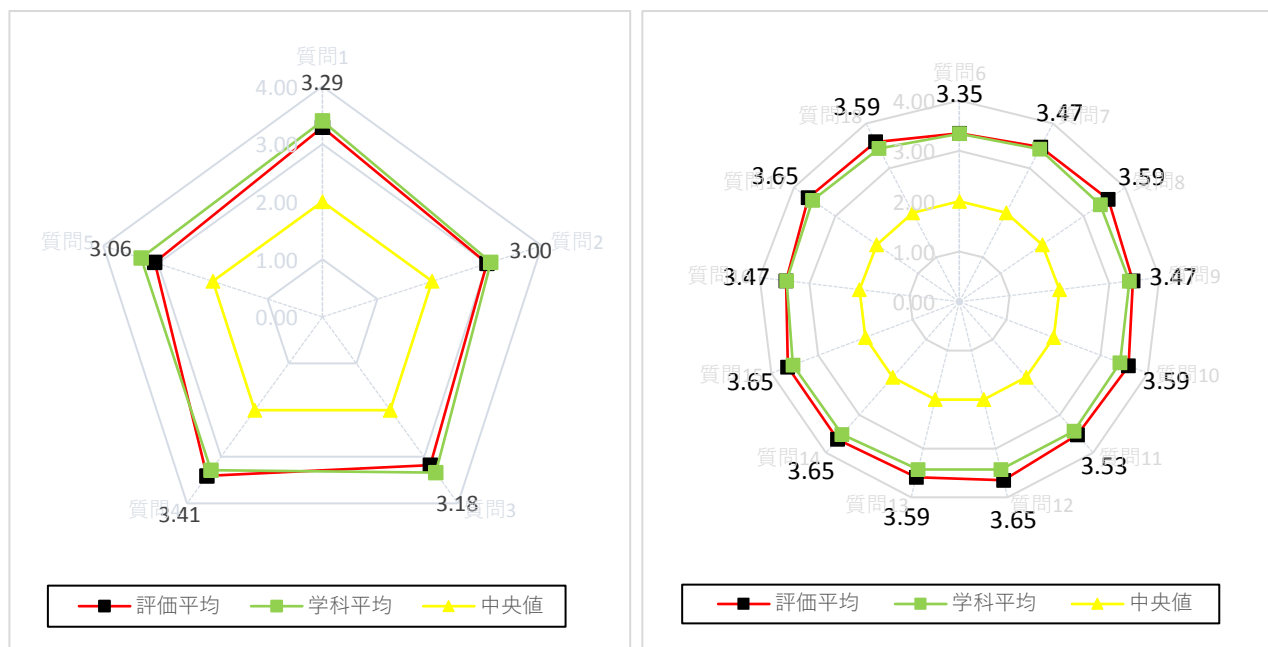
学生とのコミュニケーションに関する評価項目が若干低位であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

レフレクションペーパーなどを活用した取り組みを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		脳と認知科学	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

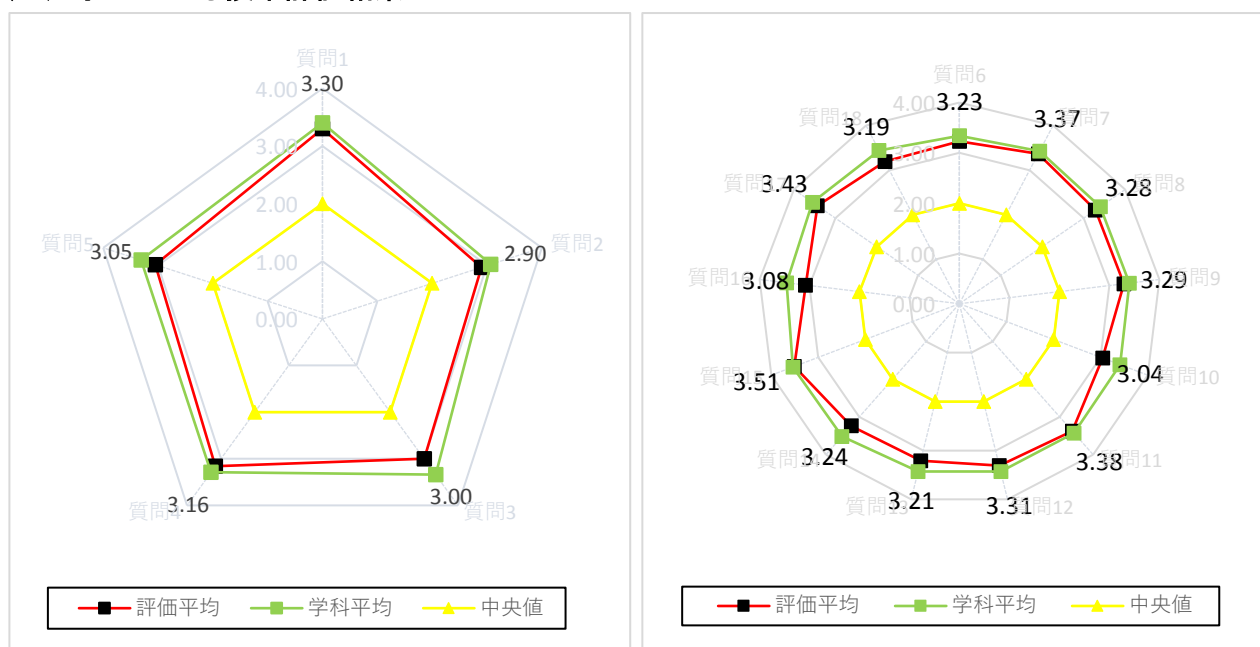
学外非常勤講師を含めた3名の教員のオムニバスで進めたが、その連続性と整合性に関して、予習復習の際に学生に不安を与えた可能性がある。一方で、個別の評価・レポートも順調に対応する学生さんがほとんどであり、個別の講義は充実していると評価されていると考えられた。PowerPointによるプレゼンテーションと、アクティブラーニングによる講義であるため、質問10は質問内容自体が本講義に即していないものと考えられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

長年学外非常勤講師を含めた3名の教員のオムニバスで進めた講義だが、次年度は小浦が10時間以上担当し、非常勤講師との2名での講義とする予定である。それにより、講義の連続性と整合性に関して、予習復習の際に学生に不安を与えるデメリットの軽減が図れるものと考えられる。引き続き、PowerPointによるプレゼンテーションと、アクティブラーニングによる講義であるため、質問10は質問内容自体が本講義に即していないものと考えられるため、全項目の高評価を望むのではなく、学生さんの満足度を上げる講義内容を目指すものとする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		法学	214名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

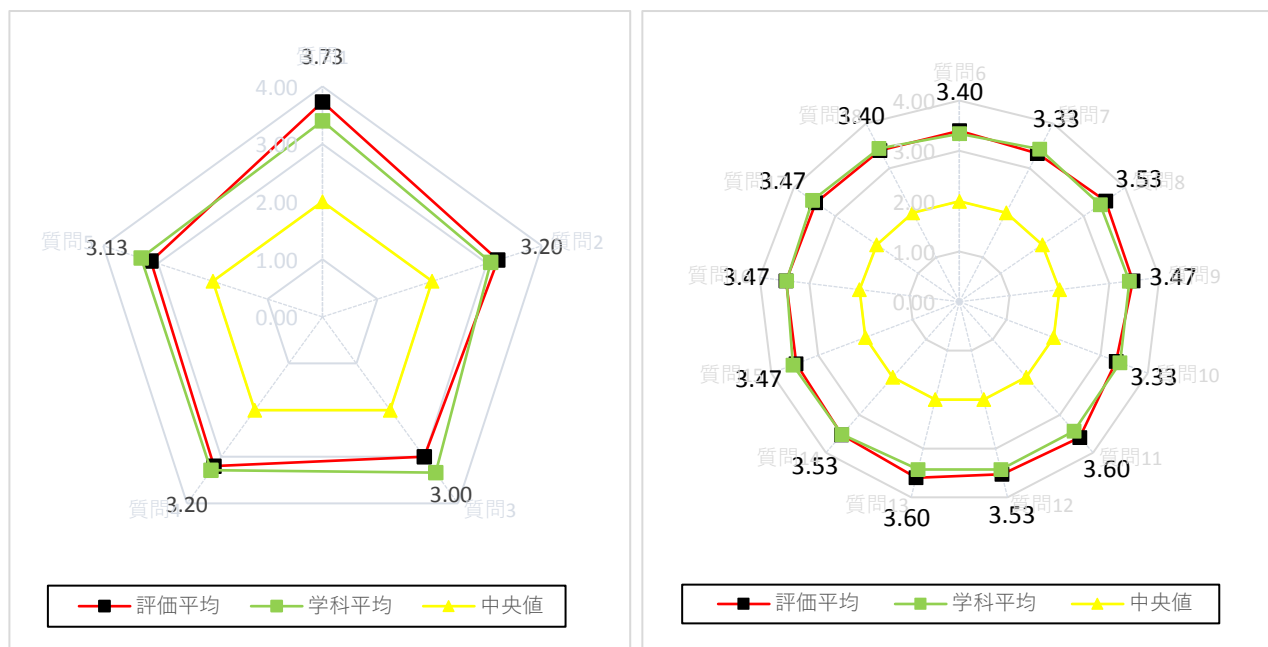
授業評価が平均値と比べて大きく悪かったところは、質問3、質問10、質問14、質問16であろう。質問3については、大人数の講義であるために、教室内のガバナンスをなかなか制御しきれない。いちいち私語に対応していると、注意だけで授業が終わってしまう。しかし、私語を野放しにすると、真面目に授業に取り組んでいる学生に申し訳ない。どの程度で私語を制御するかが問題である。質問10については、ホワイトボードが見えにくいという指摘が多かったように思われる。これも大教室であるために、なかなか難しい。とはいえ、マーカーのインク切れの問題もあったので、これについては容易に対処可能であるので改める。質問14・16についても、講義科目であるために双方向の授業を展開するには限界がある。しかし、疑問点をそのままにしておくのはまずいので、授業時間中に質問に対応する時間を設けたいと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 私語を積極的に注意する。私語は他の学生に対して大いなる迷惑になることを明確にする。
2. ホワイトボードを使う際には、よくインクの出るマーカーを用いて大きめに書く。ただし、ホワイトボードを多用することには躊躇を感じる。学生がノートをとる、メモをとるという能力の涵養も重要であるからである。
3. 授業時間中に質問を受け付ける時間を設ける。挙手をする学生はなかなか多くないので、毎回リアクションペーパーを配布し、この中で疑問点を書いてもらい、次回の授業の冒頭でフィードバックすることにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		くらしと経済	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の結果は、概ね学科平均と同じであった。やや難解な経済学をできるだけ平易に説明してきたつもりだが、まだ改善の余地があるようだ。視聴覚機器や黒板の使い方は、評価が低く今後改善していきたいと思う。今後は、よりわかりやすい授業を心がけていきたいと考える。□

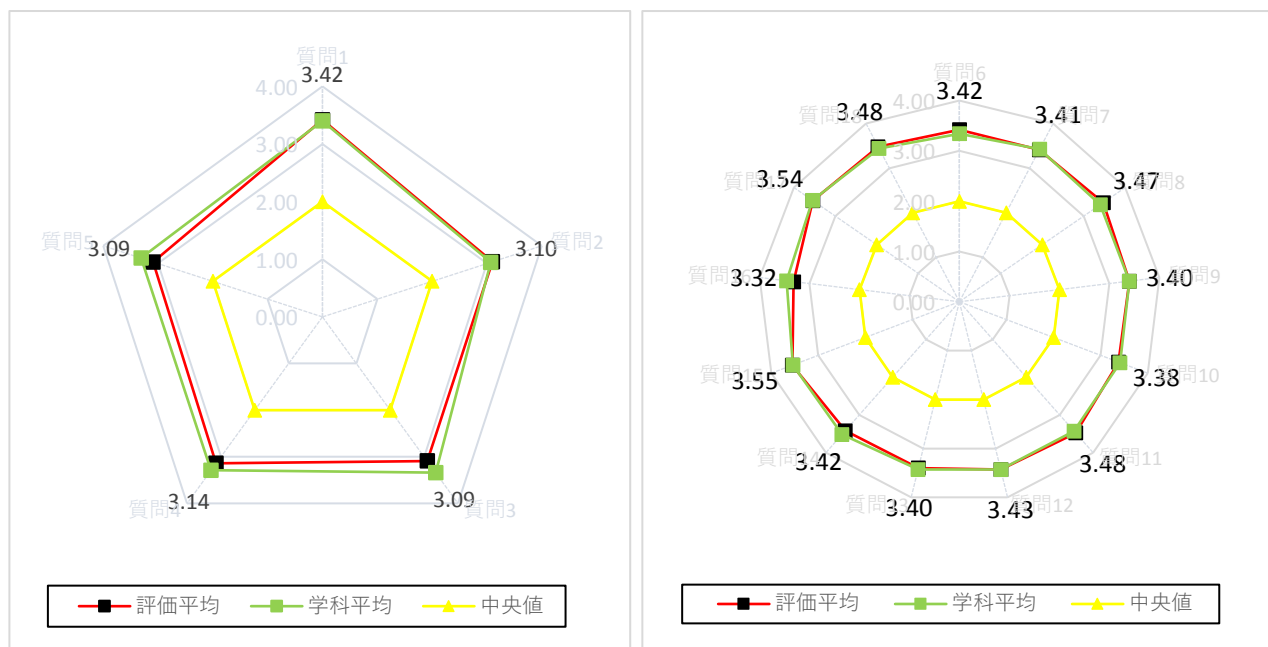
(3) 次年度に向けての取り組み

黒板の文字が見えにくい場合は、配布資料でカバーするなどしていきたい。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。□

□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		身近な生活の化学	138名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

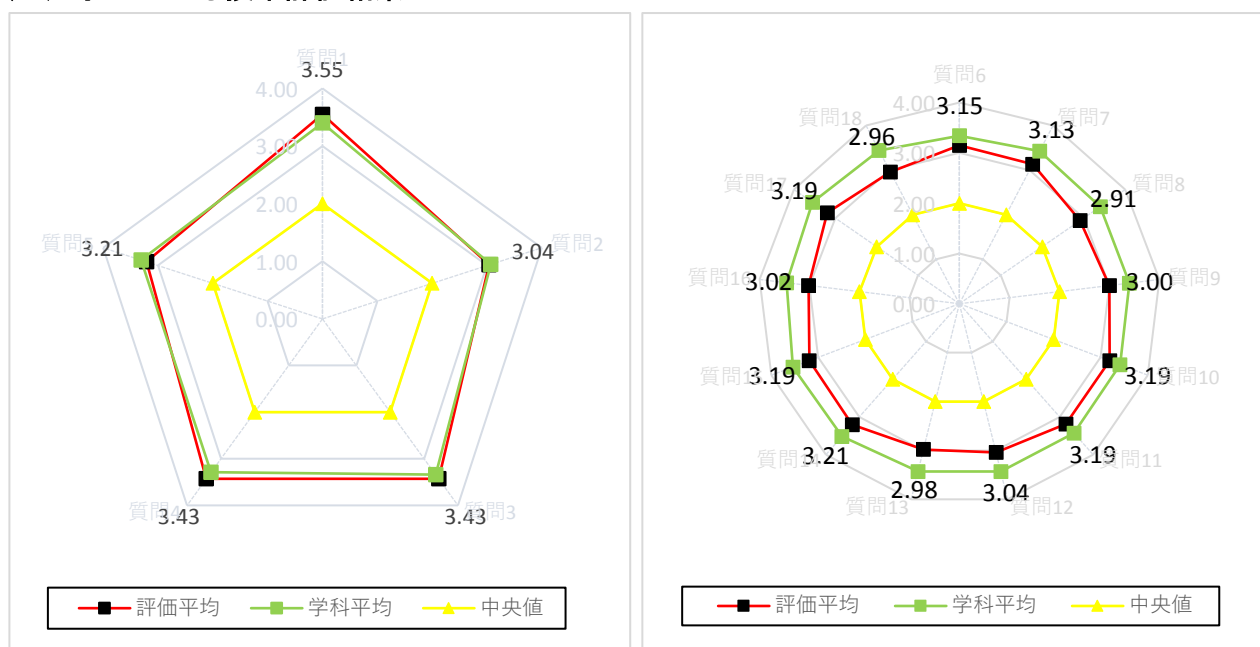
概ね学科平均と同等の結果であった。
 教養科目であるため、すべての学科の学生が受講しているため、どのレベルに標準を合わせるべきか、いつも悩んでいる。
 また、大人数なので油断するとすぐ騒がしくなるので、授業に集中させるのが大変だった。
 工夫した点と言えば、興味を引くようなDVDを見せたり、難しい反応を身近な例を挙げて説明したりと、できるだけわかりやすく、そしておもしろく説明することを心掛けた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、理系文系を含めた大人数が受講することが予想される。
 化学と言えば、難しいというイメージがあるので、身近な例を挙げてわかりやすく教えることをモットーとしたいと思う。
 よりよい教材や視聴覚機材を用い、興味を引くような工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		統計学の基礎	73名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

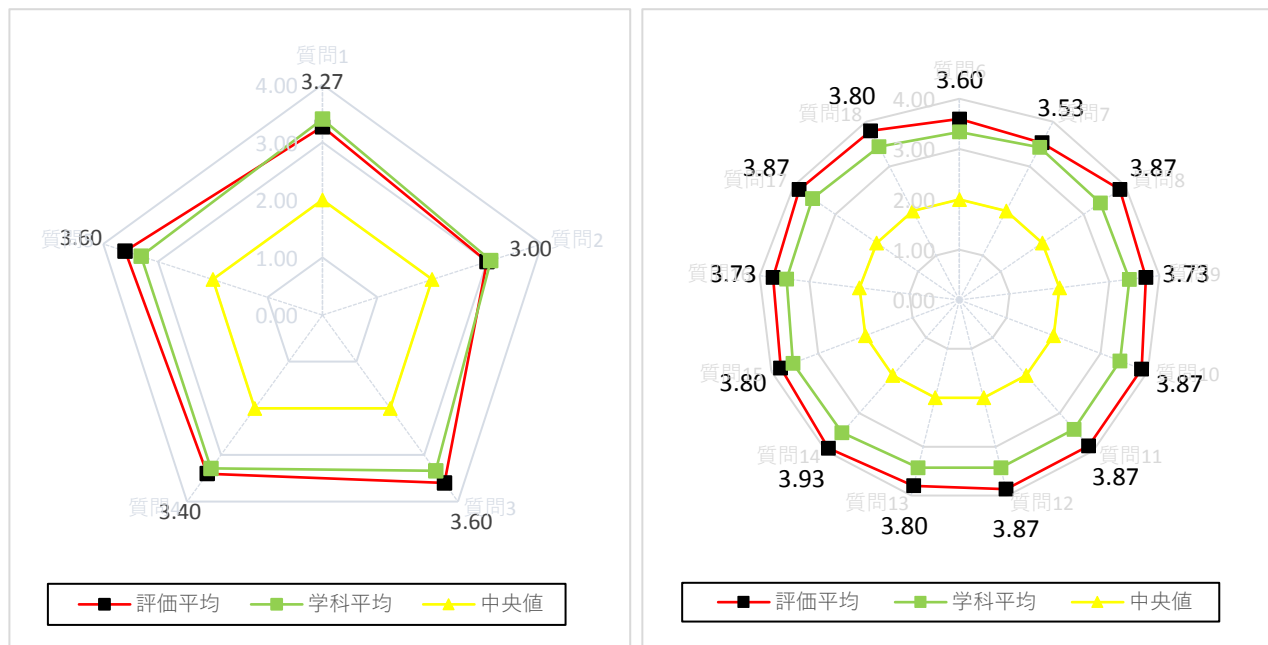
理系科目のため配布資料や数式の展開等について工夫したつもりであったが、この点については学科平均より少し低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は、1年生が多いためか、すぐ解答を知りたがる傾向があった。もっと考えさせて解答させる工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		健康運動科学	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は共通教育科目/健康スポーツ(選択科目)として、1年次の後期に開講している。初級・中級障がい者スポーツ指導員の資格取得に必修であり、健康福祉学部生52名、および健康栄養学部生28名の履修者であった。

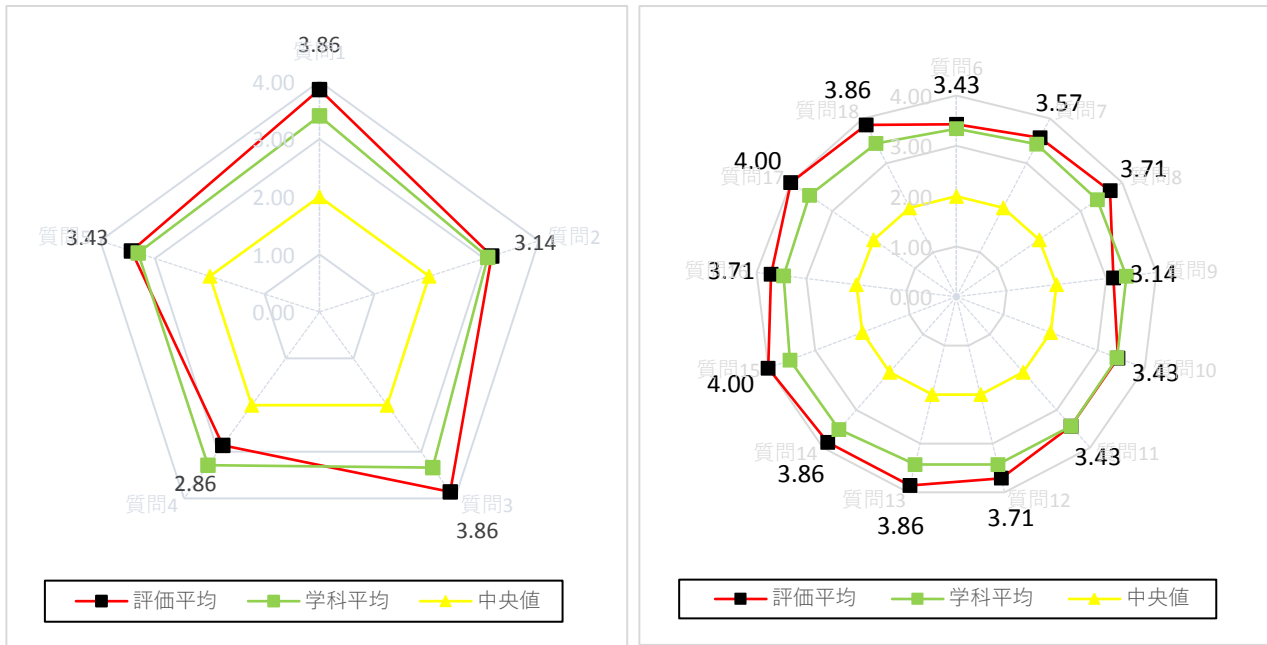
結果から、教員に関する質問項目6-18に関しては学科平均を上回る評価を得た。一方、学生の意欲・態度に関する項目に関して、質問1「欠席回数」や質問2「シラバス活用」は学科平均を下回る結果となり、学生の意欲を引き出す声かけや見通しを持たせる働きかけが必要であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す声かけや見通しを持たせる働きかけを行っていききたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		フィットネス・スポーツ	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

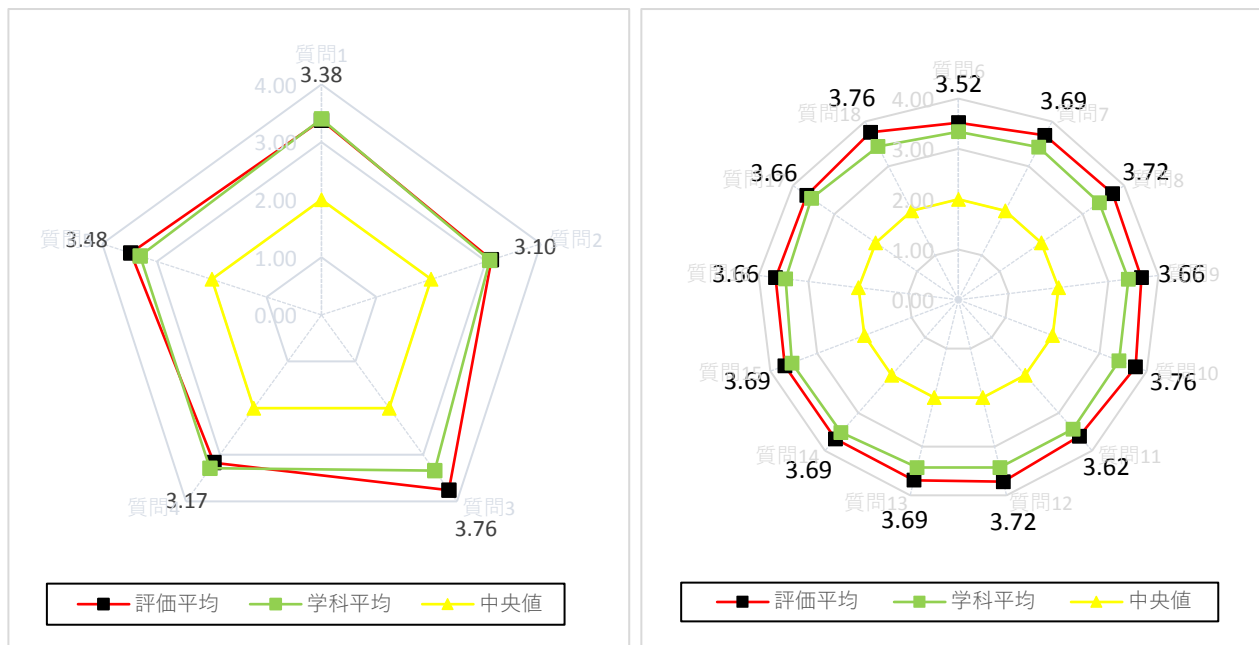
すべての項目に対する内容は、概ね良好であったと判断できる。多くの学生の運動欲求は高く、適切な環境を準備することで、自ら進んで学び楽しむ授業の目的を達成することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

全国的に授業実施が困難になる状況のなかで、工夫してこの科目の内容を知り、よりよく実践するための考え方を学ばせていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		フィットネス・スポーツ	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

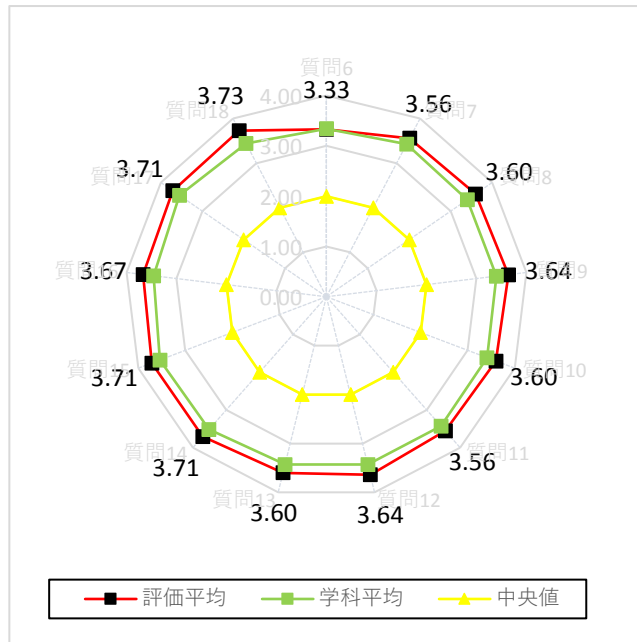
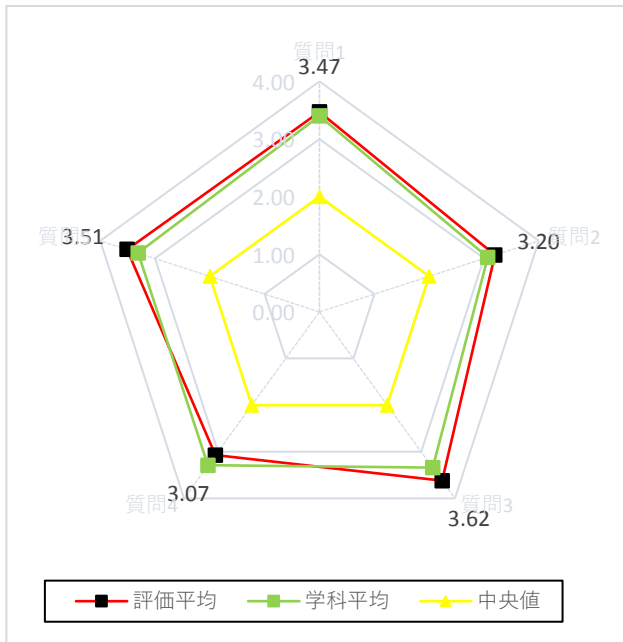
友人たちと楽しく授業に参加できたのではないかと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

怪我のないように配慮し、楽しい雰囲気の中で技能アップできるような授業準備。
生涯にわたってスポーツと関われるように様々なスポーツの紹介。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ウェルネス・スポーツ	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

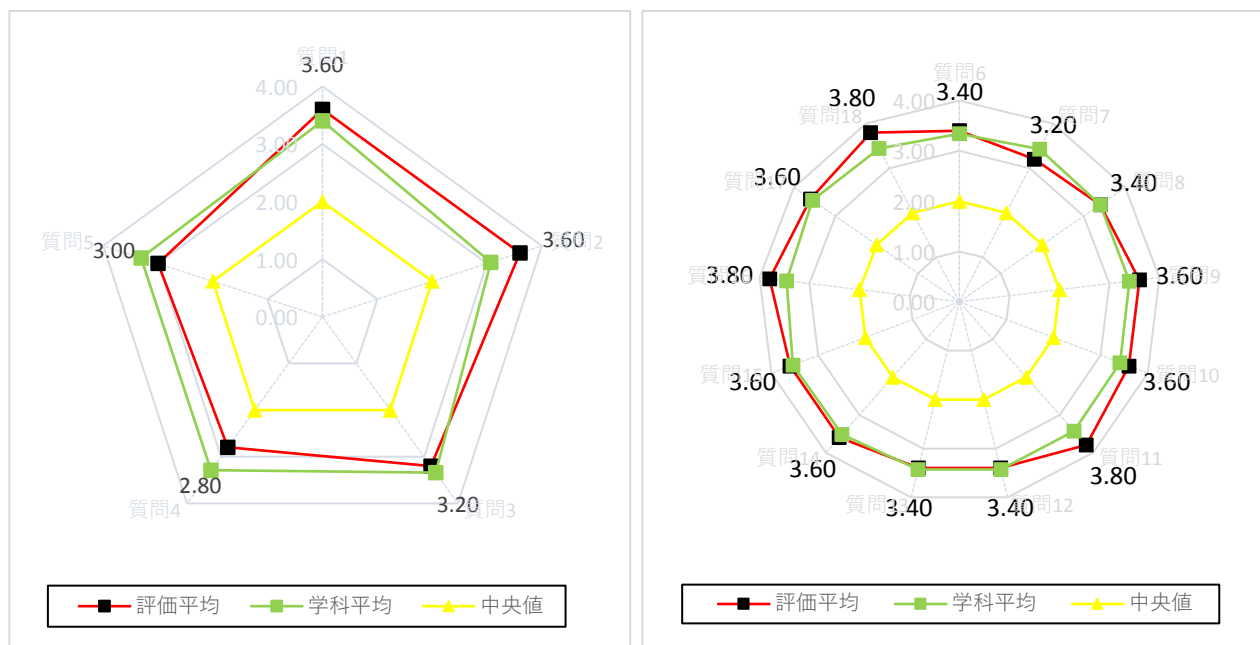
友人たちと楽しく身体を動かせたのではないかと、思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

怪我のないよう配慮しながら、楽しく技能力や体力がアップできるような授業準備。
生涯にわたってスポーツと関われるように様々なスポーツを紹介。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		文化人類学	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

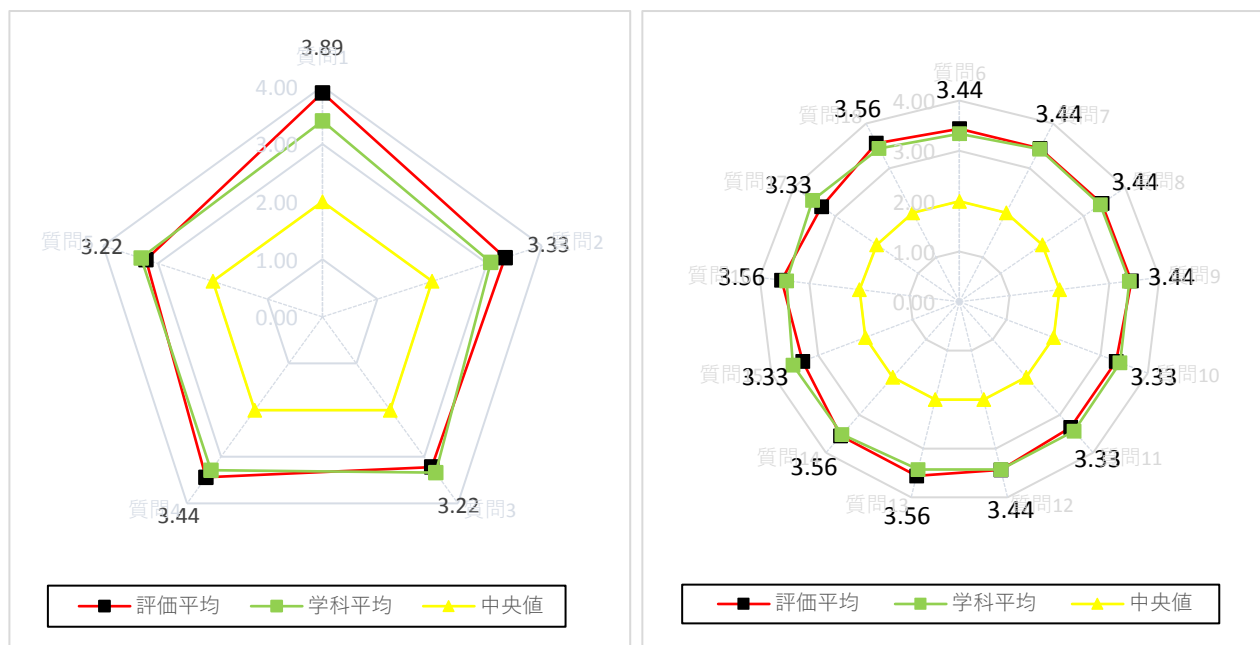
到達目標のアナウンスと口頭説明の仕方について評価平均より低い部分があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義の到達目標を講義中により明確にアナウンスし、また、より明瞭な説明の仕方を心がけたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		変わりゆく国際社会を生きる	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

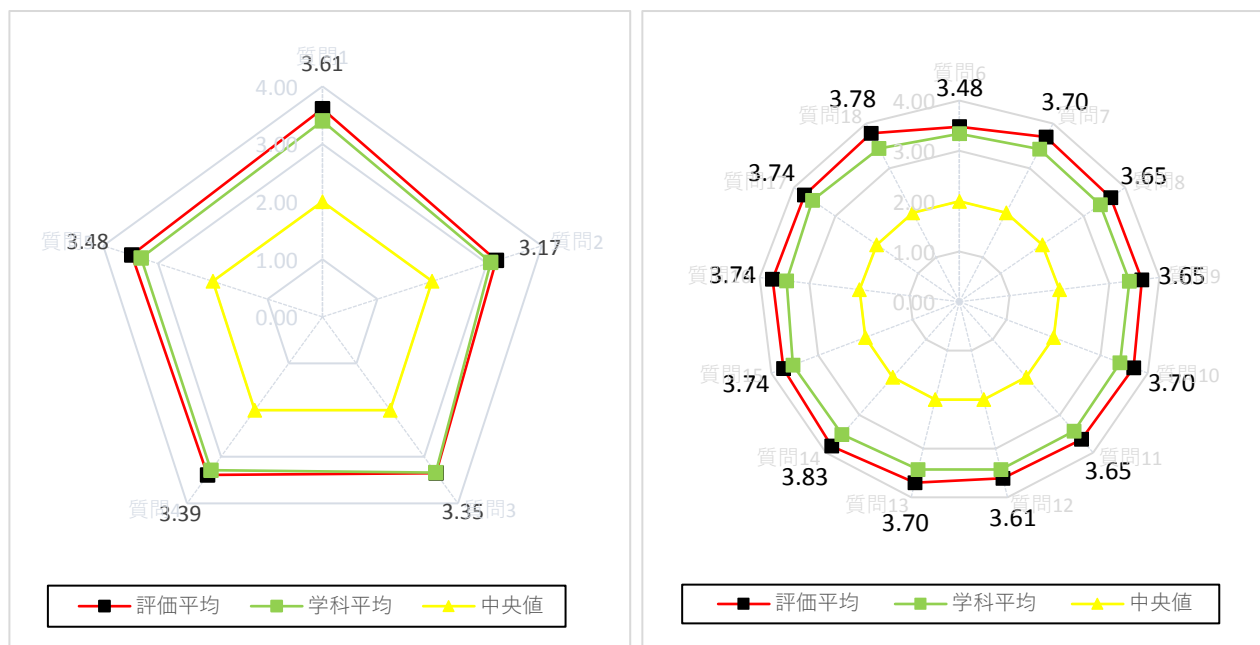
概ね平均並みである。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問15「公平に学生に対応しましたか」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」がやや低いので、授業に取り組む姿勢、授業での発問の仕方、授業内外での学生との接し方について反省し、改善に向けて意識をして取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		日本事情 (Japanese & World Issues)	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

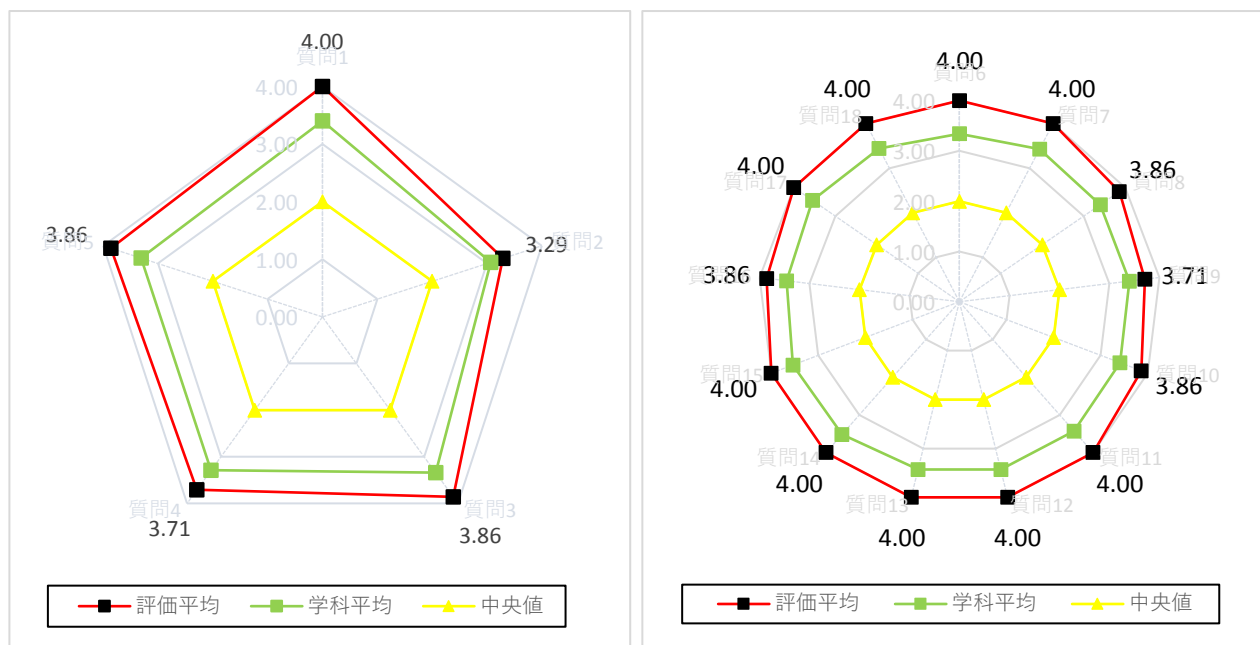
日本事情は3年目となる。毎年調整して毎年内容変化させている。今年度も学生からの反応が良く大変うれしく思う。途中で脱落者いたので、残念。質問1-5に関しては学生自身の取り組みで、質問4と質問5の答えは非常に良かった。質問6-18に関しては、全問学科平均より高いので満足だ。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は先生の入替わり予想しているため、うまく調整したいと思う。早めに日程や依頼を済ませたい。今年同様もしくは今年以上いい評価されたい。留学生と西九州大学の学生と一緒に英語で勉強できる授業で毎年楽しく運営している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		Global English II	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

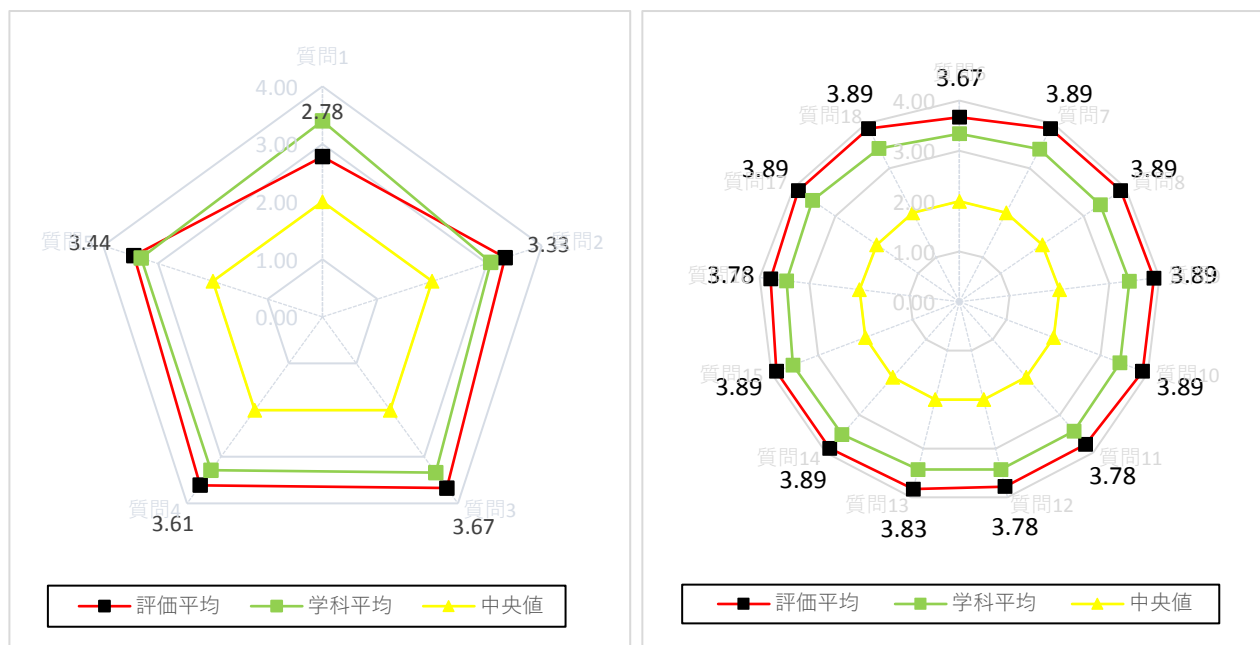
授業の流れが二部構成になっている授業だったので、学生もシラバスをよく活用できているように思われる。全体的な授業の流れを把握するのは大事なのでこの傾向は保持したいところである。能動的にメディアを使って学習するというメニューが学生には受け入れやすかったのではないだろうか。もっともプレゼンテーションでは結構苦労していた学生も散見されたが、多くの項目が学内平均を上回っているところを見ると、総合的に学生は充実して授業をこなしていたように思う。今後もこの状態を保持しつつさらに積極的に授業を受けてくれることを期待している。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の大まかな流れはあらかじめ決まっているのであまり個人的に変更することはできないが、学生への個人的な目配り、気配りには気を付けている。今後その点は特に気を付けて細やかな対応を心がけたい。
追記：本年度は遠隔授業が進行中。こまめな学生対応を心がけている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		Global Communication (English)	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

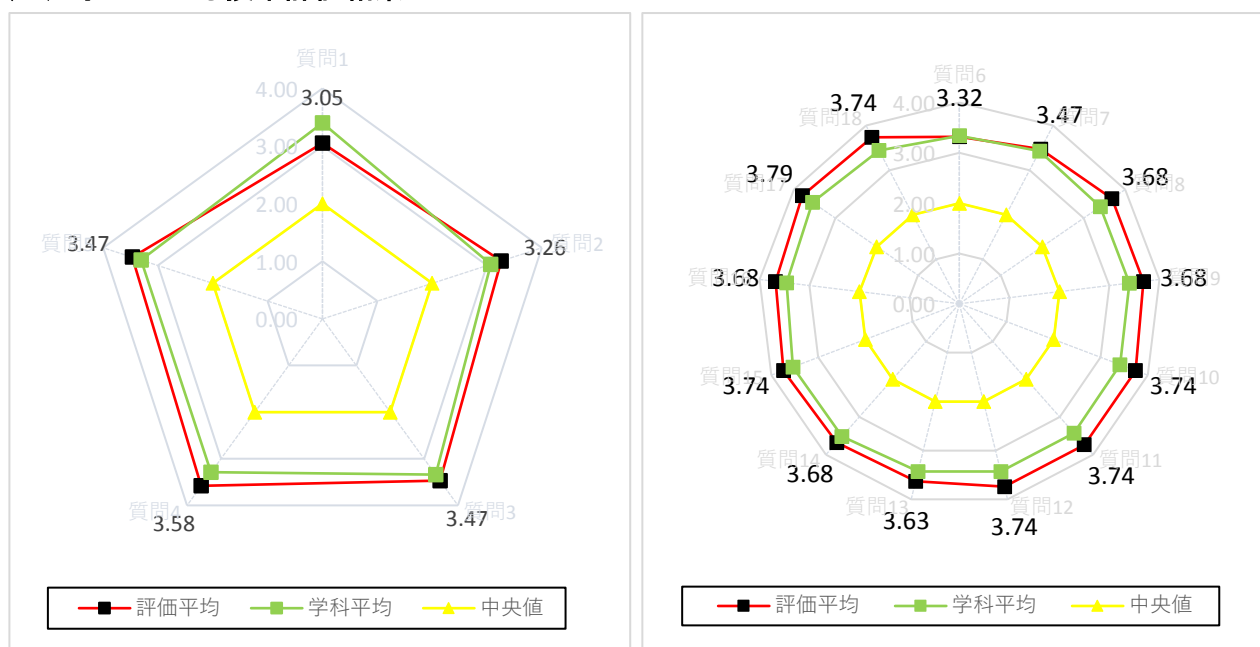
GCEは5年目となる。毎年調整して毎年内容変化させている。今年度はマンツーマン英会話の要素入れたため学生からの反応が良く大変うれしく思う。途中で脱落者いたので、残念。質問1-5に関しては学生自身の取り組みで、質問4と質問5の答えは非常に良かった。質問6-18に関しては、全問学科平均より高いので満足だ。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は先生の入れ替わり予想しているため、うまく調整したいと思う。カレンダー関係で例年より短くなるかもしれないので、早めに日程や依頼を済ませたい。今年同様もしくは今年以上いい評価されたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		韓国語	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

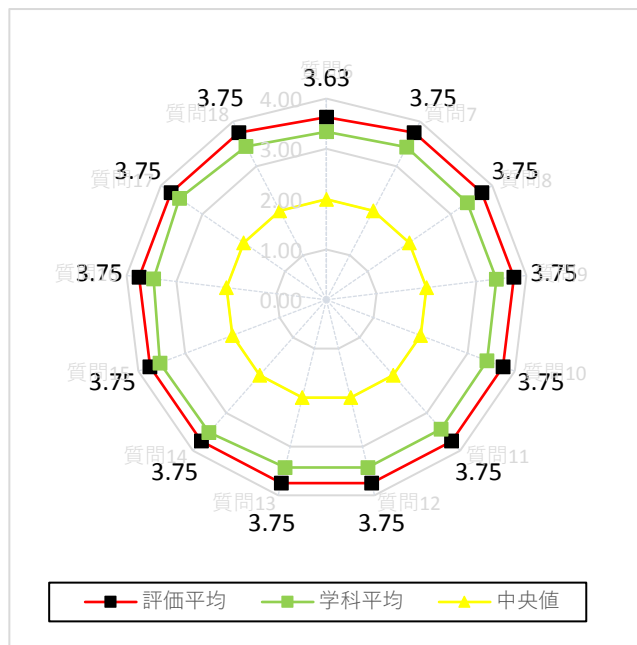
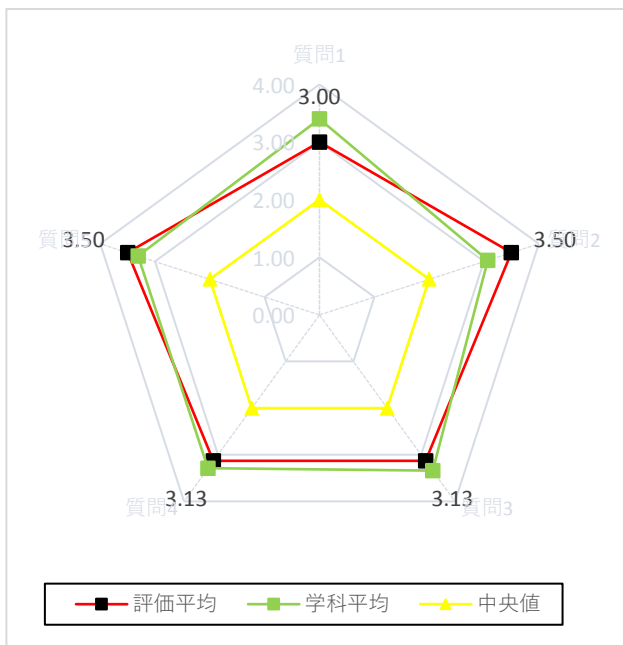
全体的に学科評価より高い評価となっており安心した。毎回の授業は双方向型で、発音練習などをしながらコミュニケーションをとったため、学生自身が集中して真剣に授業参加していたことが確認できる。本講義において、授業の際には、学生の理解度を上げるために、視聴覚資料（映像、PPTなど）を積極的に取り入れ、教員と学生はもちろん、学生同士のコミュニケーションにも力を入れた点が評価されたものと思われる。15回の授業の中では、中間評価を兼ねて、小テストを取り入れていたので、学生自身も、学習内容をしっかり理解しているかどうかの確認ができたと思う。またほとんどの学生が、韓国語で簡単な自己紹介ができる目標を達成したので、それが反映された結果になったと思われる。ただ、欠席が多かったというアンケート結果だったので、出席率を上げるための工夫が必要だ。

(3) 次年度に向けての取り組み

2019年度のアンケート結果を踏まえ、次年度も同様の方針で講義を行いたい。本授業は、前回の講義内容の確認（復習）、PPTを用いた学習内容の説明、練習、授業内容の再確認という流れで授業構成をしている。それに加えて、次年度は、毎回の授業の際に、学生がもっと理解しやすいように工夫して足りないところを補うように心がけている。また、板書の見やすさ、声の大きさやスピードが適切なのかを学生に確かめながら進めていきたい。授業中の居眠り、おしゃべりなど授業妨害を避け、学生がもっと楽しく授業に参加できるように、できるだけ学生一人一人の反応を確認しながら、取り組んでいきたい。また、質疑応答を学を行うなど、双方向の講義方式の練習時間を調整しながら、集中して勉強ができる環境を整えながら授業を行っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		語学研修	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

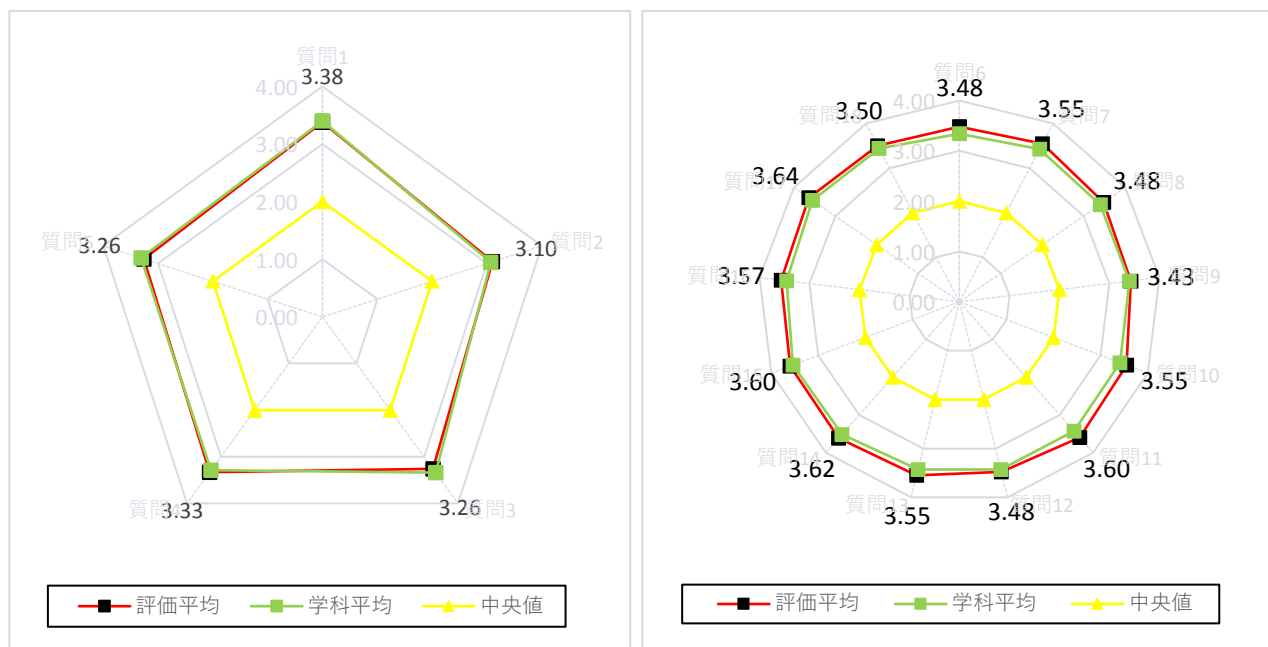
コロナウイルスの影響ですべての語学研修プログラムは中止となりました。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度プログラム実施できるといいです。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学	88名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

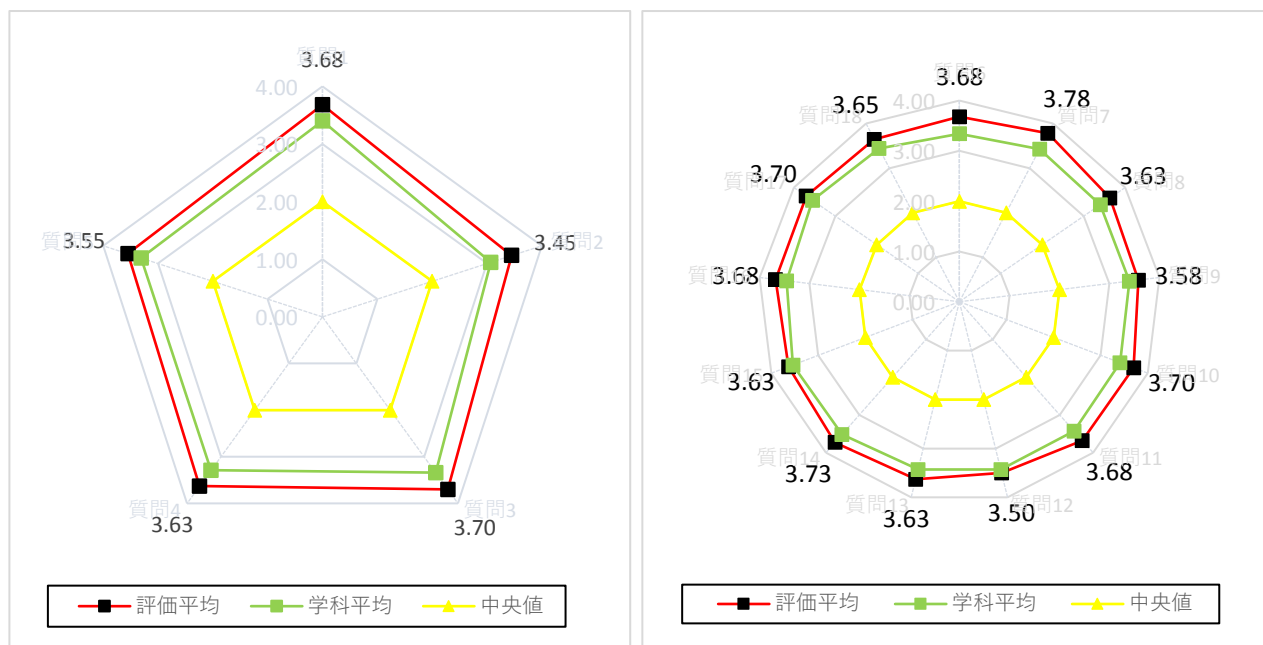
食品学の授業評価においては、項目1から14までのすべてにおいて学科平均とほぼ同じであったが、やや低い項目も少しあった。授業への関心や分かりやすさの項目において、少し難解であったと学生が感じているところがあるかもしれない。前年度よりは多少良いかもしれない。いずれの項目においても学科平均とほぼ同じであったが、年によって学生の平均的な学力やバラツキ度合いが変わるので、今後の改善の余地があると考えている。本授業は専門科目の中では基礎的な分野であるが、国家試験に向けては大切な科目の一つでもある。多くの学生は、国家試験の為だけではなく、食品に関しては興味関心を持っているはずであるので、そういった授業にしていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

食品学の授業評価においては、特に大きな課題は無いようであった。しかし、学生の中には明らかに理解ができていない者や理解に苦労している者も見られた。食品学の基本的な知識において、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、前年度も小テストや課題プリントを実施したことは良かったと思うので、より試験勉強に直結するように小テスト、課題、定期試験をリンクさせて臨みたいと考えている。また、学生が授業に能動的に参加するように、板書やパワーポイントの使い方を考えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学実験	120名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

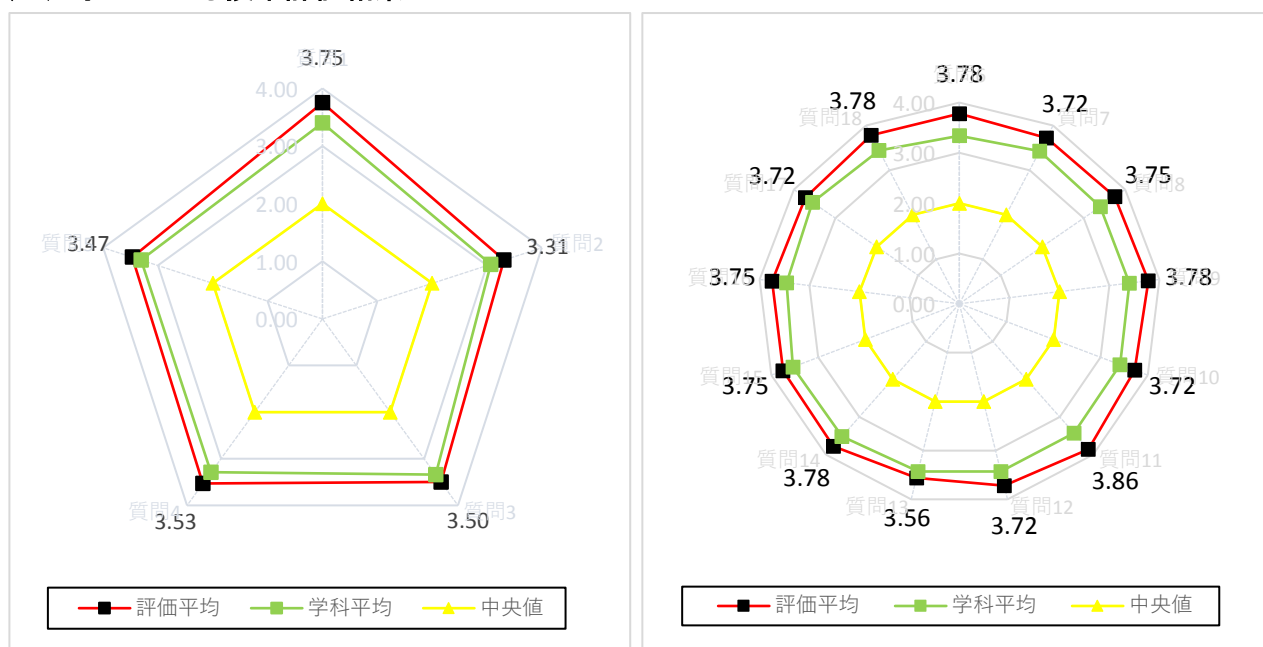
食品学実験の授業評価においては、すべての項目において、学科平均を少し上回るレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあるようだった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

化学を背景とした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとって難解に感じるところがある。この点については、説明や計算を一緒にすることなど、もう少し時間を取りたいと思っている。実験内容の部分的な変更や、できるだけ全員が主体的に取り組めるような方法などを少しずつ工夫していきたいと思っている。化学実験は危険も伴うものなので、何より事故やケガが起こらないよう細心の注意を払っていききたい。また、定期試験の内容と評価についても工夫が必要と思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理学	91名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

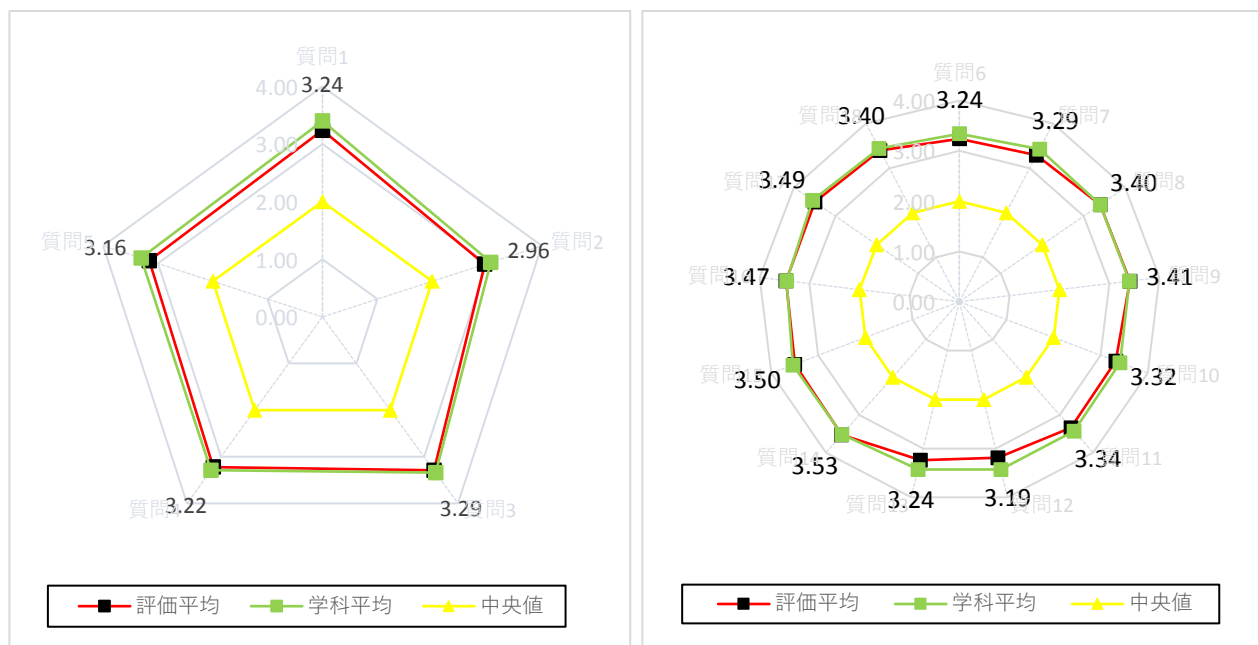
調理学の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。調理に関する雑学も交えつつ、国家試験にも関連する内容であることから、1年生時より国家試験問題にふれられる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

座学中心ではあるが、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においては最も基礎となる科目でもあることから、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		教育心理学	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

講義による授業の最終試験では、学んだ内容を、各自の講義ノートを手がかりに、設問に文章によって解答することを求めている。最終回の授業では、1回目から15回目までの講義内容を受講生とともに振り返り、授業テーマ（テキストでは章）ごとに想定される設問を伝えた。また、想定の設定問への解答例を示し、解答の仕方のポイントを把握するように促した。また、授業の最後に当日の講義に対する気づき・意見などをA5判の用紙に記述させ、講義の要点に触れた何人かの記述を講義の復習を兼ねて次回の講義の最初に紹介した。

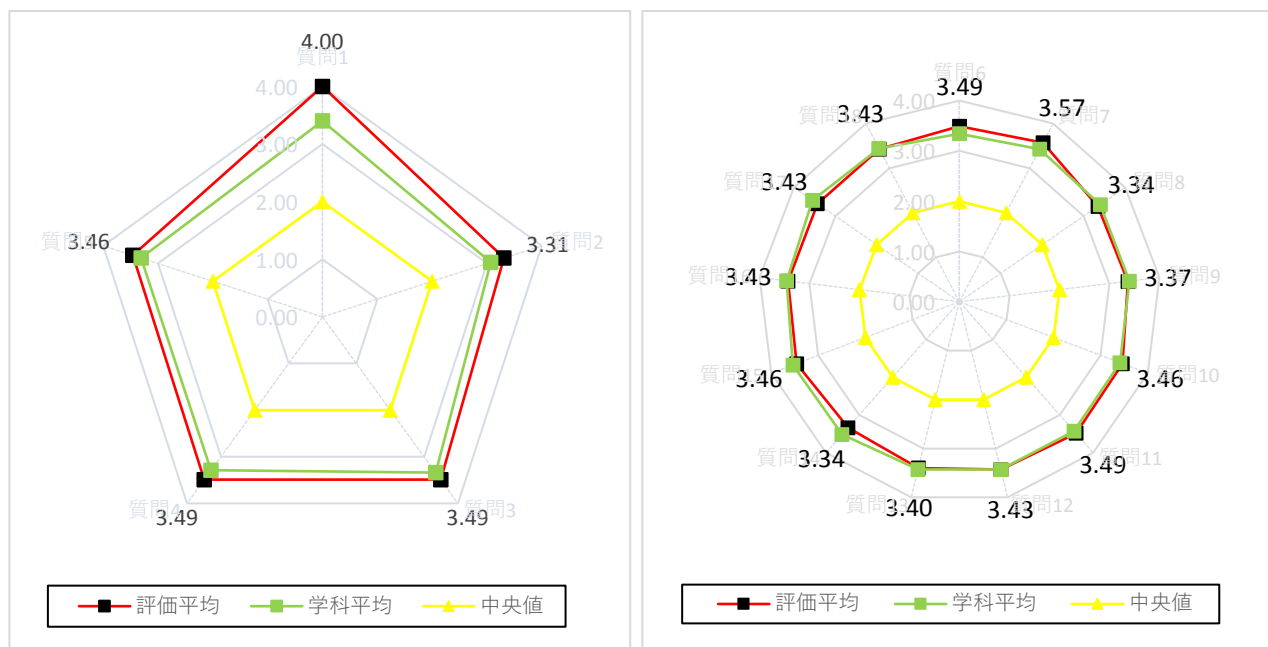
にもかかわらず、合格点に達せない受講生が少なからず存在した。指導の吟味・改善が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義内容の理解に対する指標は、自己の理解に基づいて、重要な概念を紹介できる、法則や得られた知見の意味などについて記述できることと捉えている。指標の再考が必要かもしれない。あるいは、内容の精選を行い授業のペースを多少スローダウンする必要かもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理教育学実習	115名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

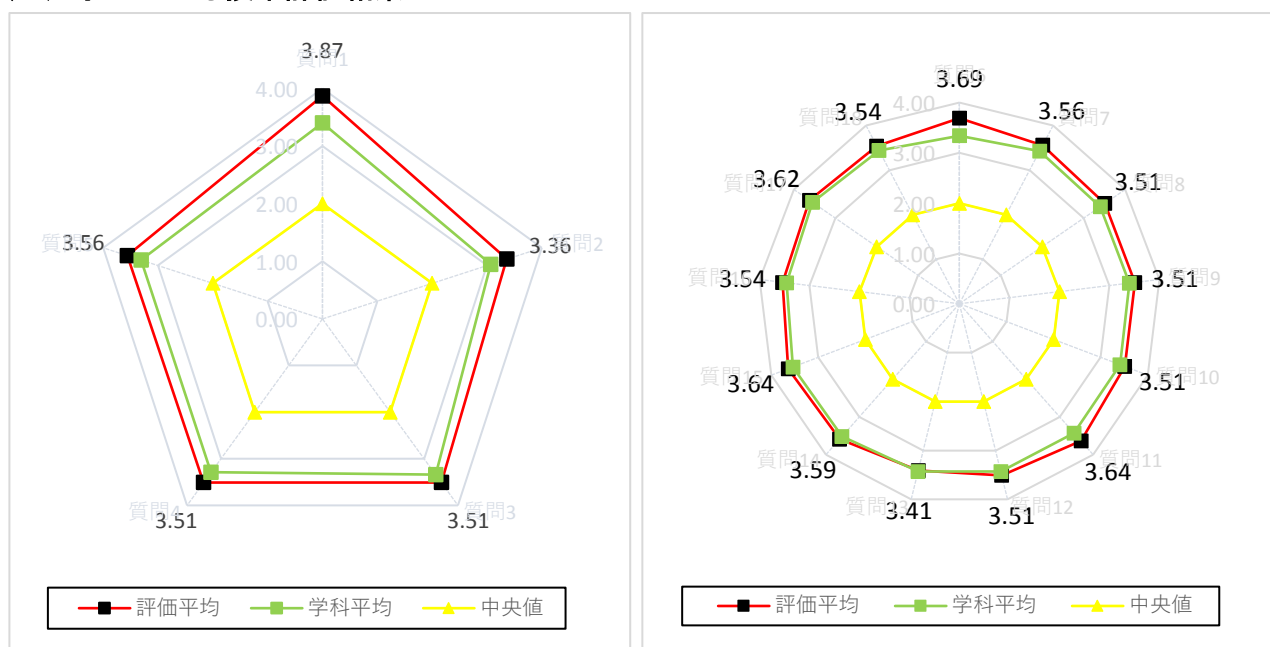
1クラス受講者37名、回答16名（回答率43.2%）、2クラス受講者38名、回答11名（回答率28.9%）、3クラス受講者40名、回答8名（回答率20.0%）と、回答率がかなり低い。結果は学科平均とほぼ同様であるが、特に「授業に出席した」の回答が最高点となった。これは授業が実習であることと、料理教室の開催というグループで進めていくスタイルの実習であったため各自が役割を持っており、出席率が高いことにつながったのではないかと考える。クラスによって若干、結果に違いがあるが、2クラスはほかのクラスに比べて全体的な評価が低めの傾向にある。授業の内容や進め方は同じであるが、学生の積極性を考えると2クラスが一番低い印象であったため、自ら進める実習スタイルを苦手としている学生が多いのかもしれない。しかしながら、この結果もかなり低い回答率からの結果を考察したに過ぎず、本当の評価結果はもっと違ったものになるのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の回答率が全体で3割（2クラス3クラスは3割を切っている）とかなり回答率が低く、クラスによる回答数の差も大きかったため、今年度の授業評価の結果は実際の評価であるといい難いといえる。次年度は回答者数を6割程度にあげ、かつ、クラス間の回答者数のばらつきも小さくしたい。授業内容が自ら企画・運営する料理教室というかなりの積極性と自主性を求められる授業であるため、引き続き学生のモチベーションや積極性を向上させる工夫を取り入れていこうと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ライフステージ別栄養学	127名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

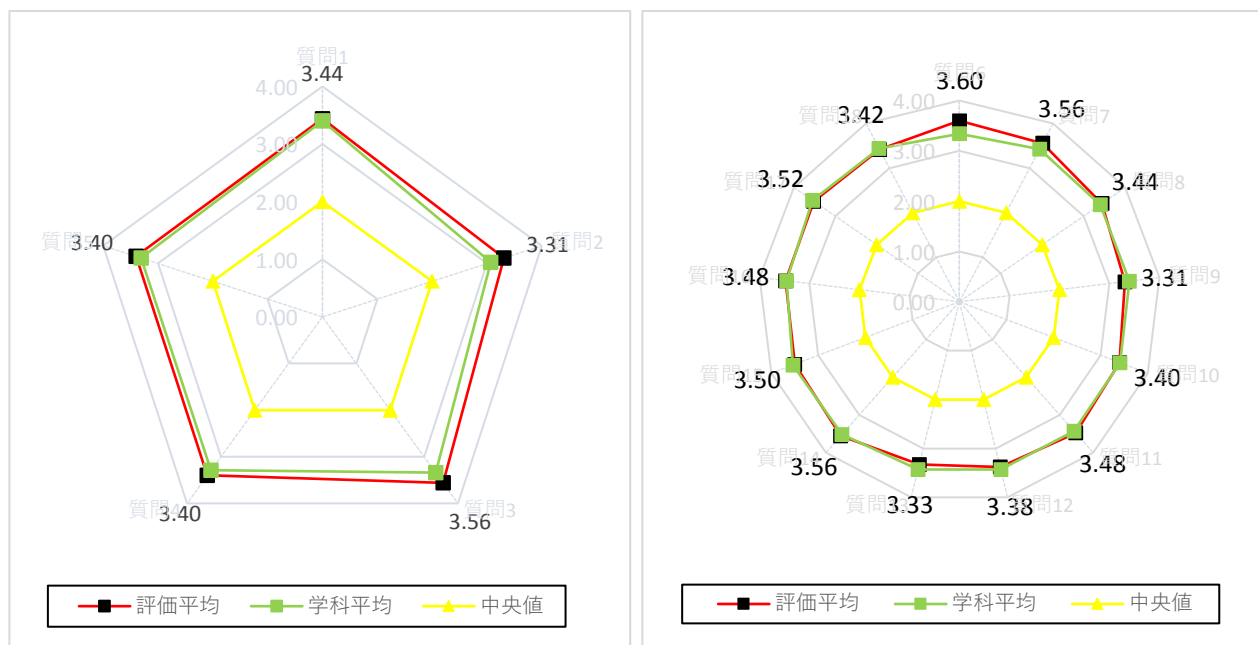
ライフステージ別栄養学の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。また、国家試験にも関連する内容であることから、国家試験問題にふれられる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。しかしながら、学生によっては理解度に差があると考えられるため、改善の余地はあると思われる。また、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

ライフステージ別栄養学は座学中心ではあるが、自主的な学習を促し、意欲的に参加できる工夫をしたい。また、栄養士だけでなく国家試験においても、本知識は最も重要となる事項でもあることから、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養マネジメント概論	138名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

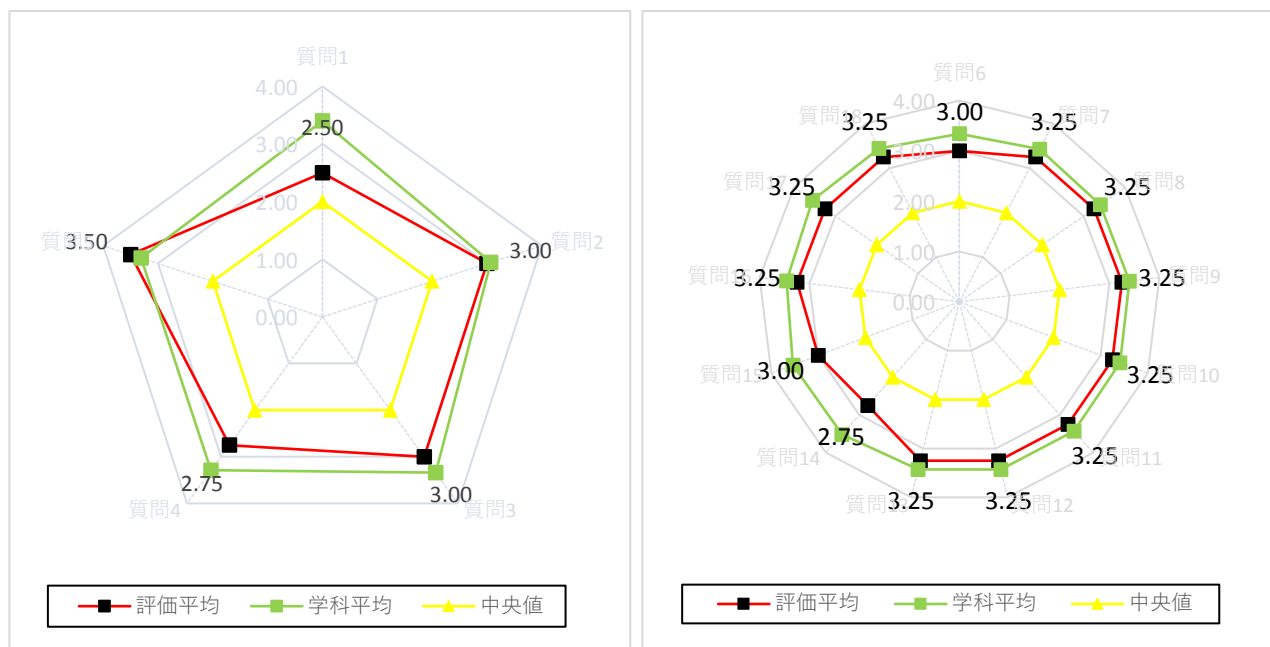
Aクラス受講生71名、回答26名（回答率36.6%）、Bクラス受講生67名、回答22名（回答率32.8%）と授業評価に回答したものの割合が4割を切っている。評価の結果はほぼ学科平均と同様の結果である。質問9が学科平均より若干低い。科目の内容が概念的な内容であることが影響しているかもしれない。また、質問12、13も学科平均より若干低いこちらはAクラス（学科平均より低い）とBクラス（学科平均より高い）でやや異なる結果が出ている。同じ時間、同じ教室で抗議しているため、この結果は回答者数が増えないと何とも言えない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、まず回答者数を挙げることを目標としたい（6割程度を目標とする）。今回は回答者数が少なく結果が割れた質問項目もあり、評価結果自体が実情を反映しているかどうか確認できていない部分がある。授業については概念的な内容がちゅしんではあるが、できるだけ具体性を持たせて講義し、できるだけ演習形式の授業を（今よりも）もう少し増やした実践的な内容にシフトしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		応用栄養学実習	120名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

応用栄養学実習の授業評価においては、授業アンケート回答率が著しく低いため分析するには偏りがあるものの、授業内容に関する項目において学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね良好な内容であったと考えている。

評価が低かった質問14・15に関しては、本授業は学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、学生によっては“正解”というものがないスタイルが合わず、このような評価につながったのではないかとと思われる。しかしながら、学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考えます。

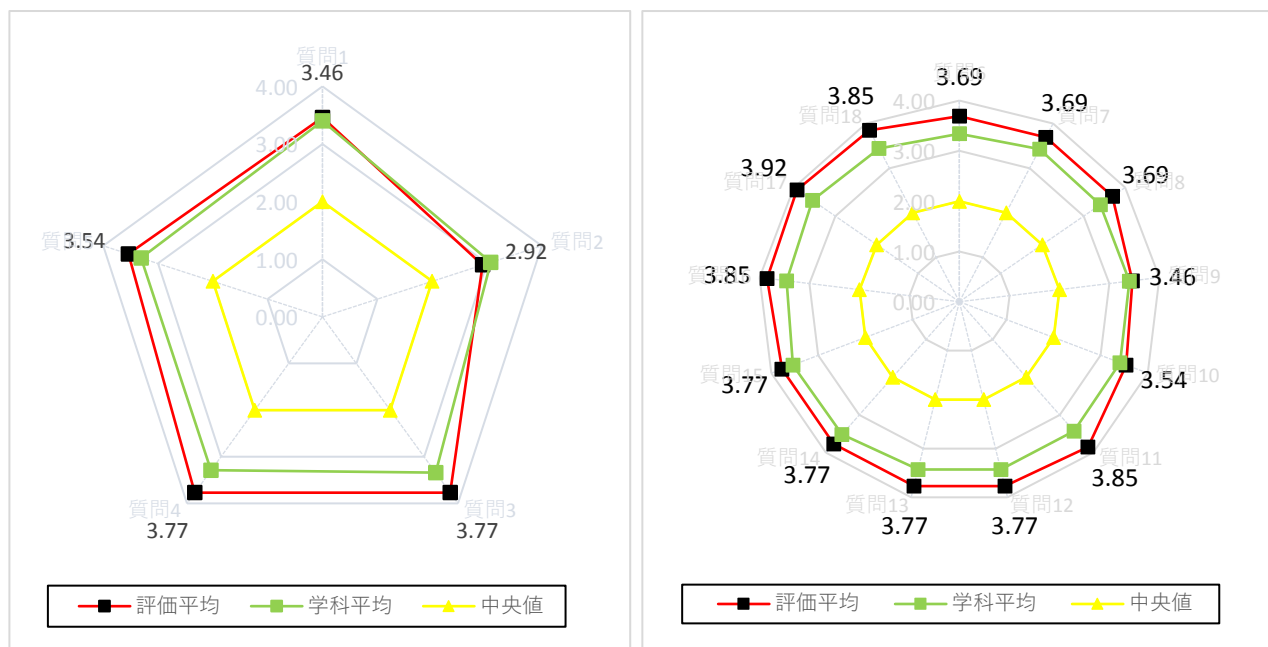
(3) 次年度に向けての取り組み

応用栄養学実習はグループワークを中心とする実習を主とする科目であるので、より意欲的に参加できる授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。

さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		化学	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生評価の結果から、学科平均よりも高いことがわかった。特に、板書の使い方、声の大きさ・明瞭さ、話す速度、授業の進度、教員の熱心さに対する評価が高く、とても嬉しく感じた。

化学は、最初の時間にクラス分けのテストを実施し、その点数に応じて2クラスに分けている。私のクラスは、点数の低い方のクラスで、化学嫌いの学生の多いクラスであった。

まずは、化学嫌いをなくすために、なるべく簡単にわかりやすく説明し、化学は難しくない、おもしろい、ということを植え付けることを心掛けた。

また、毎回、前回の授業の振り返りの小テストを行い、自分で学ぶ癖を付けさせて、自信をつけさせるようにした。

その結果、最後の定期試験では、最初と見違えるくらい良くできるようになり、私自身とても嬉しく、やりがいを感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

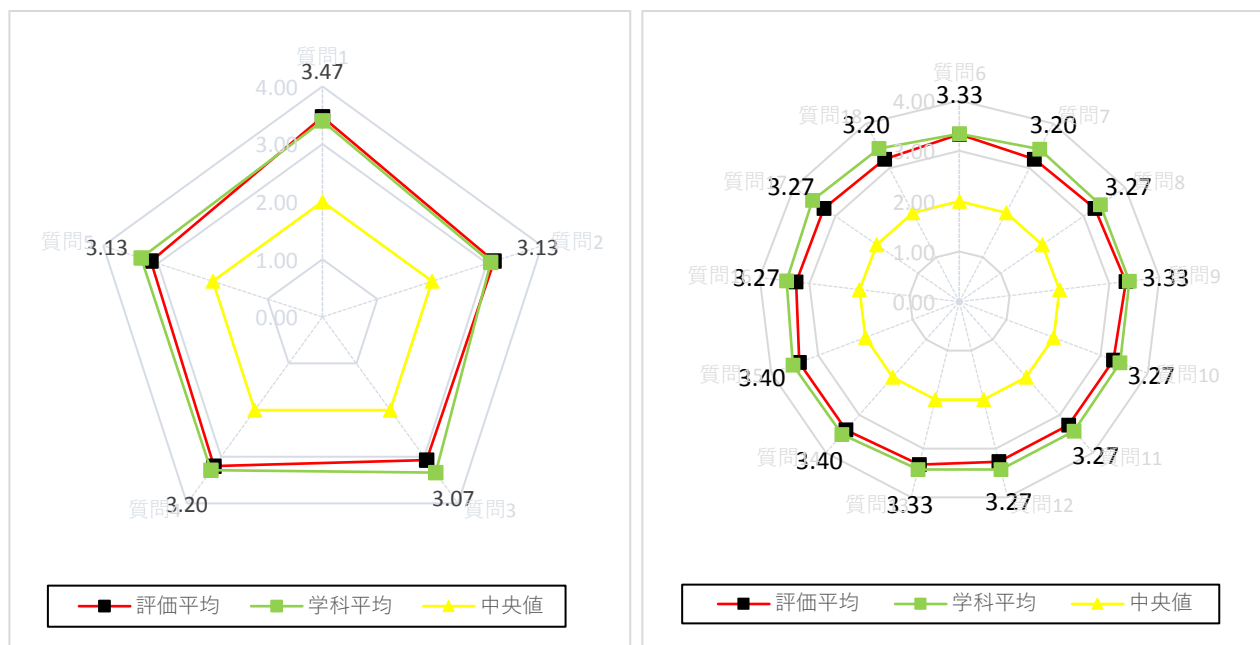
来年度も、昨年と同様のやり方でやっていくようにしたい。

これまで同様、化学をこれまで受講してこなかった、あるいは受講してきても化学嫌いだったという学生がいると思うので、まずは化学嫌いをなくすことから始めたい。

独りよがりの授業にならないよう、例題を挙げて、ホワイトボードに書かせるなど、学生が参加できるような工夫を多く取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

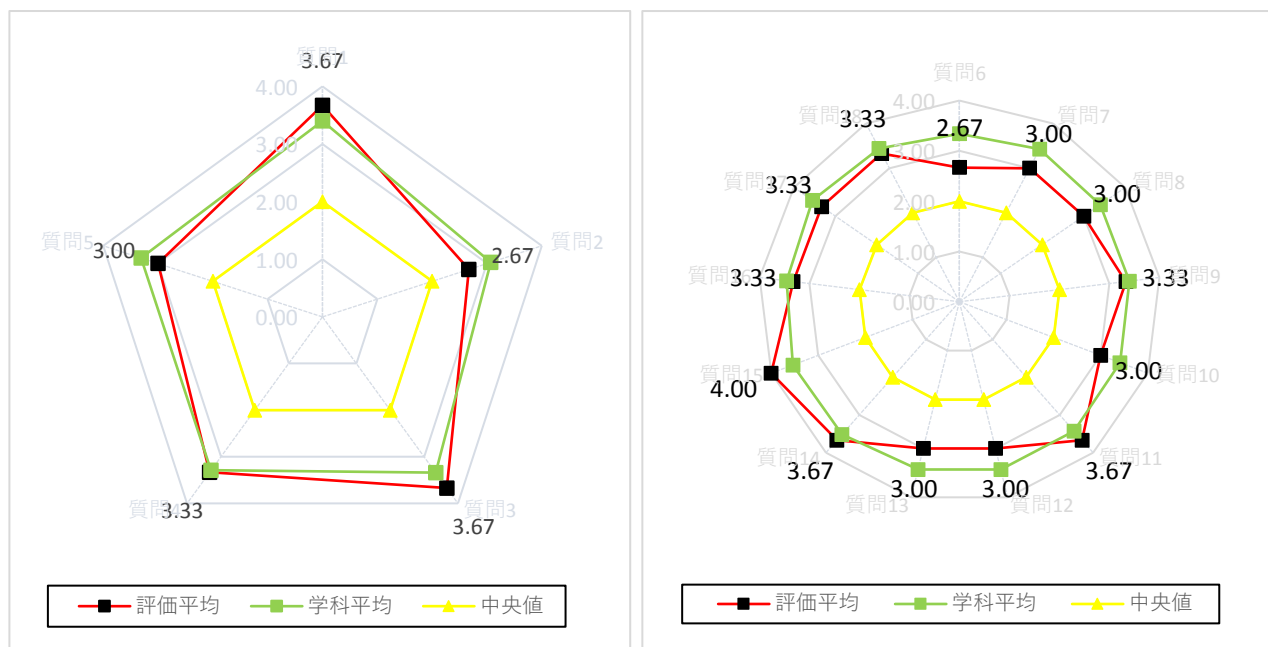
今回のアンケートで、43名の履修者から15名の回答があった。全体としてすべての質問項目において評価平均が3.0以上であったことや学生自身の総合評価（質問5）で平均3.13、授業全体の総合評価（質問18）で3.20であったことから、おおむね良い評価が得られたと分析する。ただそれぞれの項目において評価1や評価2の回答もあり、真摯な態度で現状を受け止めることも重要である。今後も継続的に授業改善に取り組み、現状よりも良い評価が得られるよう工夫、努力したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

履修学生においてこの授業は専門外の分野であるものの関連ある内容であるため、より分かりやすい説明や授業の工夫が求められると考えている。そのため、体験的な演習授業やビデオ等の視聴覚機器を使用して取り組んでいる。今後も学生が興味を深め、関心が持てる授業改善に努めたいと考えている。特に、双方向的なやり取りができる授業を意識して、次年度は取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習 I	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目は、栄養士実力認定試験に向けた内容の授業を13名の教員で行った。学生にとっては、専門の先生方によるオムニバスの授業は初めてで、国家試験の入門の科目ともいえる。今年度、工夫した点は以下の2点である。

1つ目は、オリエンテーションをしっかりと行ったことである。栄養士実力認定試験の流れ、昨年の結果など、管理栄養士の入門の科目となることなど、パワーポイントを用いてしっかり伝えた。

2つ目は、教員の講義の後、課題を与え、自己学習の時間を与えるようにした。教員側も、3年分の問題を1または2コマでこなさなくてはならず、十分に学生に理解させることが難しいが、課題によってこれをフォローできたのではないと思われる。

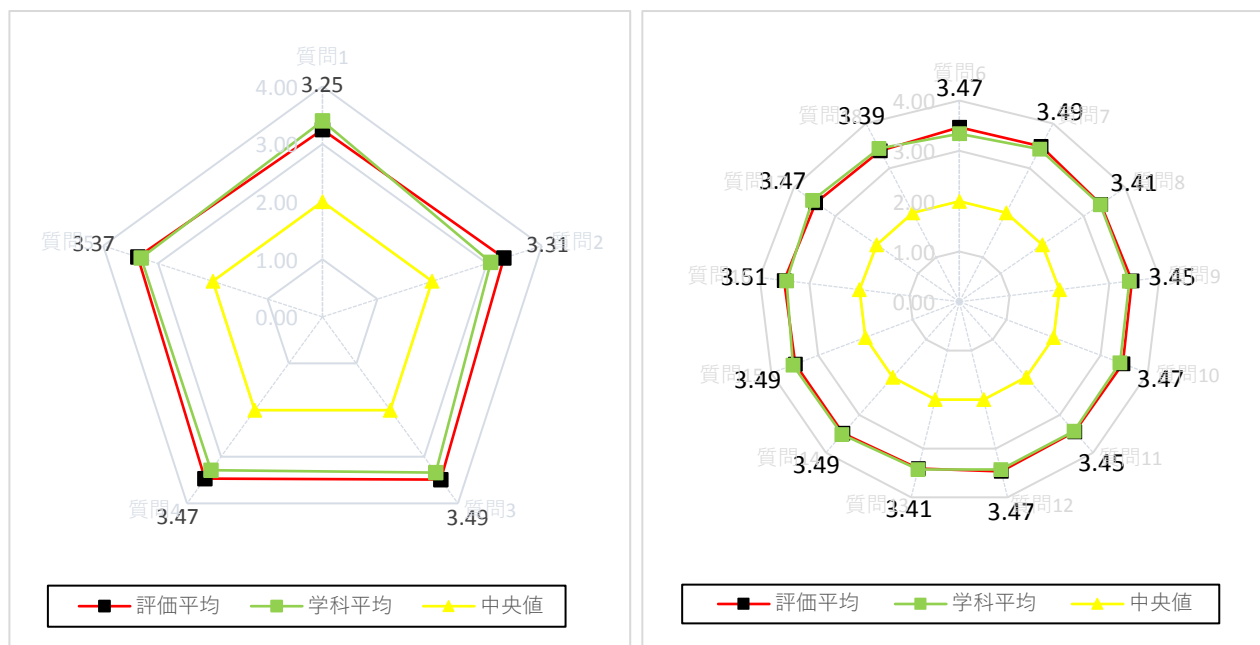
また、昨年度までは定期試験のみで成績を評価していたが、今年度は課題の評価を30%とした。その結果、この科目の成績も全体的に上がり、単位を取得できた学生も多くなった。しかし、学生による授業評価は昨年度よりも悪く、学生にとっては課題が負担になったと思われる。また、オムニバスであることから、教員によって評価が分かれているかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今回のようなやり方（課題を与えること）で行う予定である。教員にとっては負担となるが、なるべく学生に学習の機会を与えるために協力していただく予定である。これが、栄養士実力認定試験の結果が今年度より上回ること、ひいては国家試験の合格率アップにつながることを期待したい。教員間の情報共有を行い、教員間になるべく差がないように努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅱ	92名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

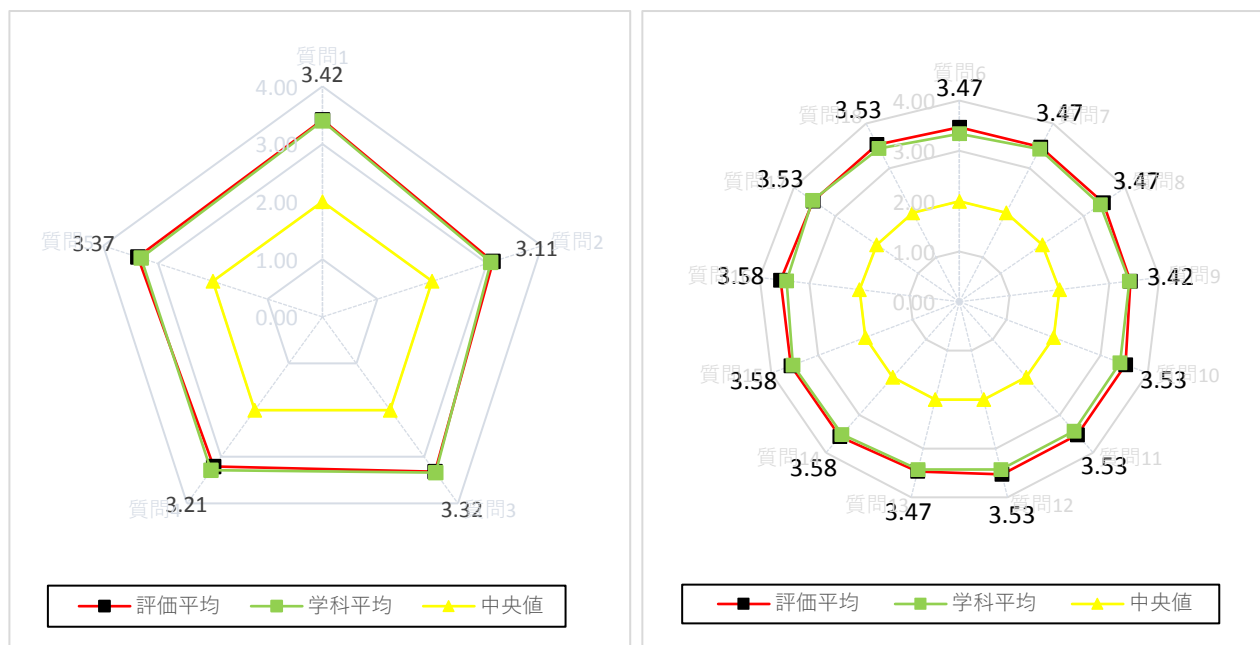
健康栄養学演習Ⅱの授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。国家試験に関連した内容であり、学生の取り組みも真剣であり、成果は十分に上がっているように感じている。オムニバスの授業であるので、それぞれの教員の授業に対する取り組みは明らかではないが、総合した評価として学生の満足度が高いことから、うまくいっているように考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

国家試験に関連した内容であり、学生にとって難解に感じる場所もあると考えられる。この点については、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。また、オムニバスであることから、一人の教員ができる内容が限られているが、この点についても、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。いずれにせよ、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあり、おおむね満足できる内容であったと考えている。改善の余地はあると思われるが、それぞれの教員が各自の専門分野で、毎年工夫を重ねているので、より評価が高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品機能学	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

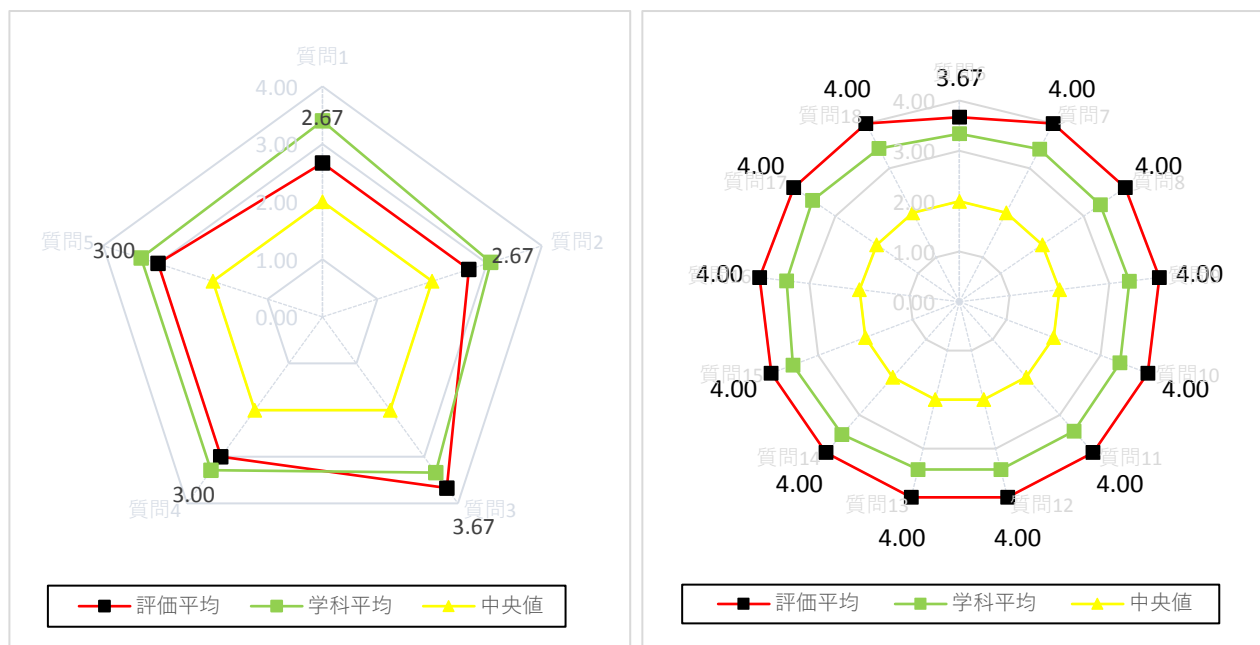
学科平均とほぼ同じ結果であった。
 授業はわかりやすく工夫されていたかが少し高評価であった。
 この科目は、選択科目であるが、国家試験の内容であるため、国試を目指す学生にはぜひ勉強してもらいたいので、授業中にこれは国家試験に出題されたなど、重要性をアピールした。
 また、学生が授業に参加するよう、毎回復習問題を解かせ、黒板に書いてもらうようにしたところ、学生が質問するなど、積極性がみられるようになった。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も、今年度と同様に国試に視点を置いた内容で、しかもわかりやすく説明することを心掛けたい。
 大人数であることから、騒がしくならないよう、興味を引くような授業にしたいと思う

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ヘルスフード科学	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

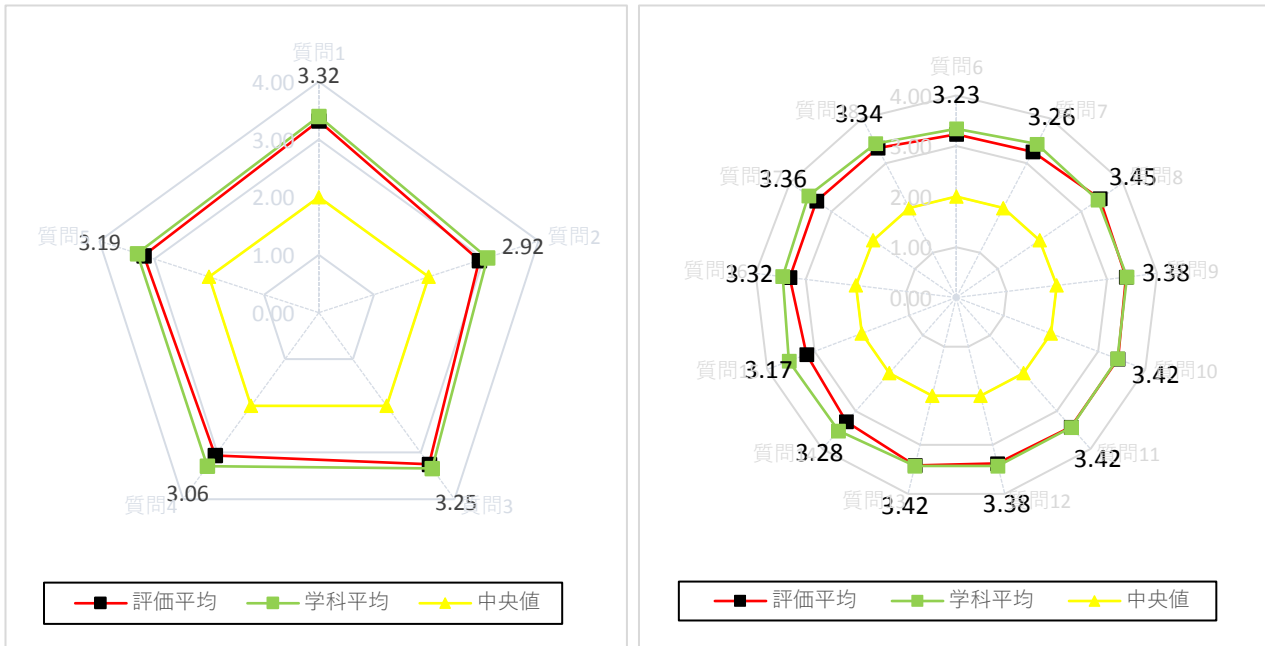
この科目は、私にとって2年目に受け持った科目である。昨年度は、「食品機能学」と被る部分もあるため、どのように進めるかと悩みながらの授業であった。そのせいもあり、学生による評価も低かったので、かなり反省した。今年度は、テキストも変え、学生によるプレゼンテーションも取り入れたところ、評価がかなり上がった。しかし、学生の自己評価が低かったことから、学生のモチベーションをあげる工夫をしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の授業の評価が高かったことから、次年度も同じスタイルで行いたいと思う。次年度は、学生のモチベーションが上がるよう、課題を与えるなど工夫をしたい。プレゼンテーションは、続けて行う予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング 看護		教職論	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体的に平均より低い。

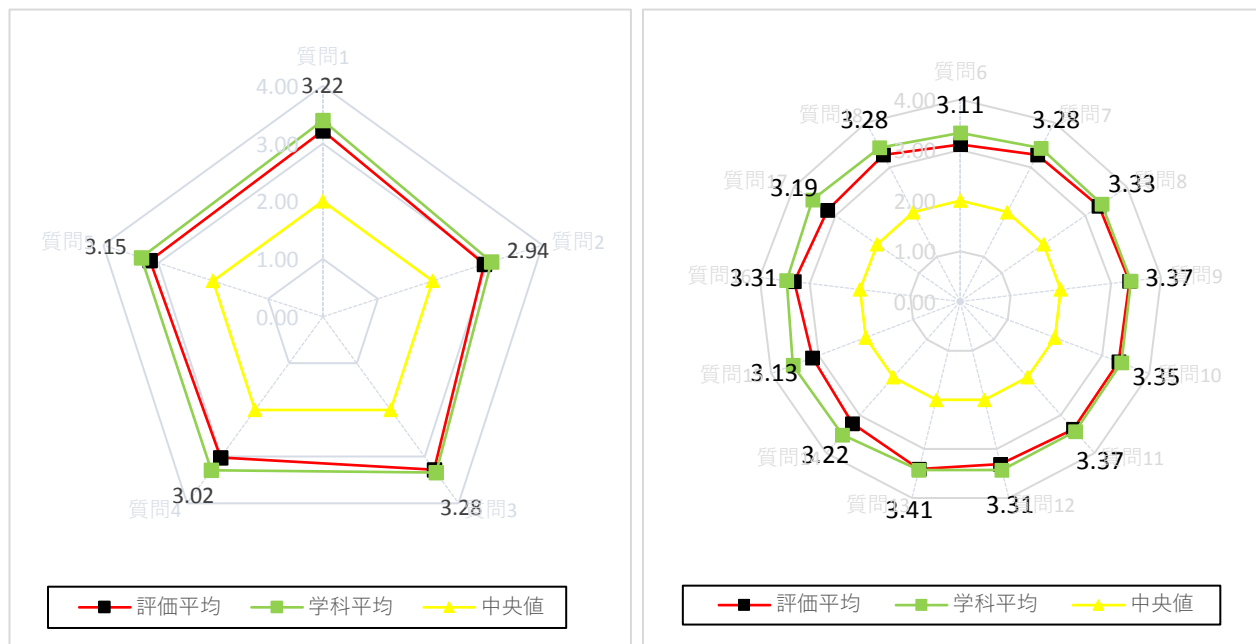
(3) 次年度に向けての取り組み

居眠り・私語対策を充実させる。

質問15「公平に学生に対応しましたか」の数値が低いので、授業中まんべんなく発問するように気をつける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング 看護		教育制度論	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体的に平均より低い。

(3) 次年度に向けての取り組み

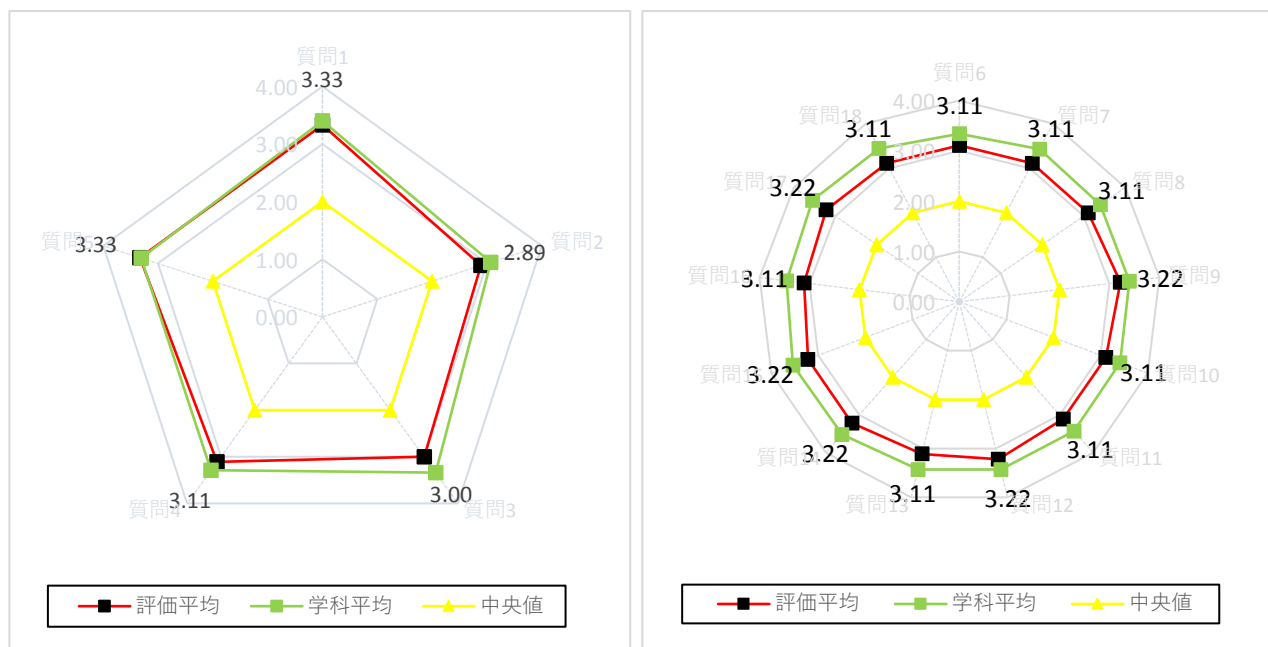
居眠り・私語対策を充実させる。

質問15「公平に学生に対応しましたか」の数値が低いので、授業中まんべんなく発問するように気をつける。

質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」の数値が低いので、自分の授業中の振る舞いについてより意識して授業に臨むようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		地域の食産業	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、7名のゲストスピーカーによる講義も取り入れたり、バーチャルにて商品開発を行うという授業であった。

しかし、評価は思ったほど高くなく、非常に残念である。

ゲストの授業内容にばらつきがあったためではないかとも考えられる。

商品開発に時間が足りなかったこともあるようなので、もう少し余裕を持たせたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

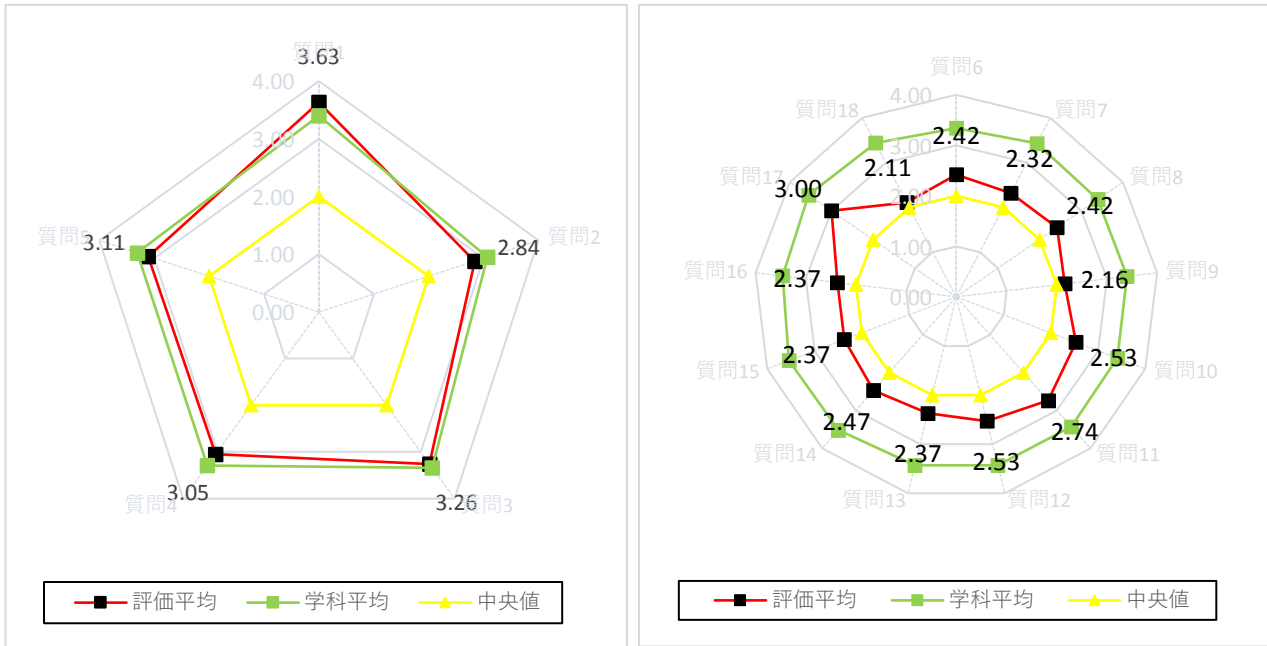
次年度も、今年度と同じスタイルで行う予定である。

ゲストに授業の趣旨や流れをもう少し詳しく説明し、全体的なまとまりがあるように工夫したい。

商品開発にかかる時間をもう少し確保し、余裕を持たせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング 看護		教育課程論	59名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

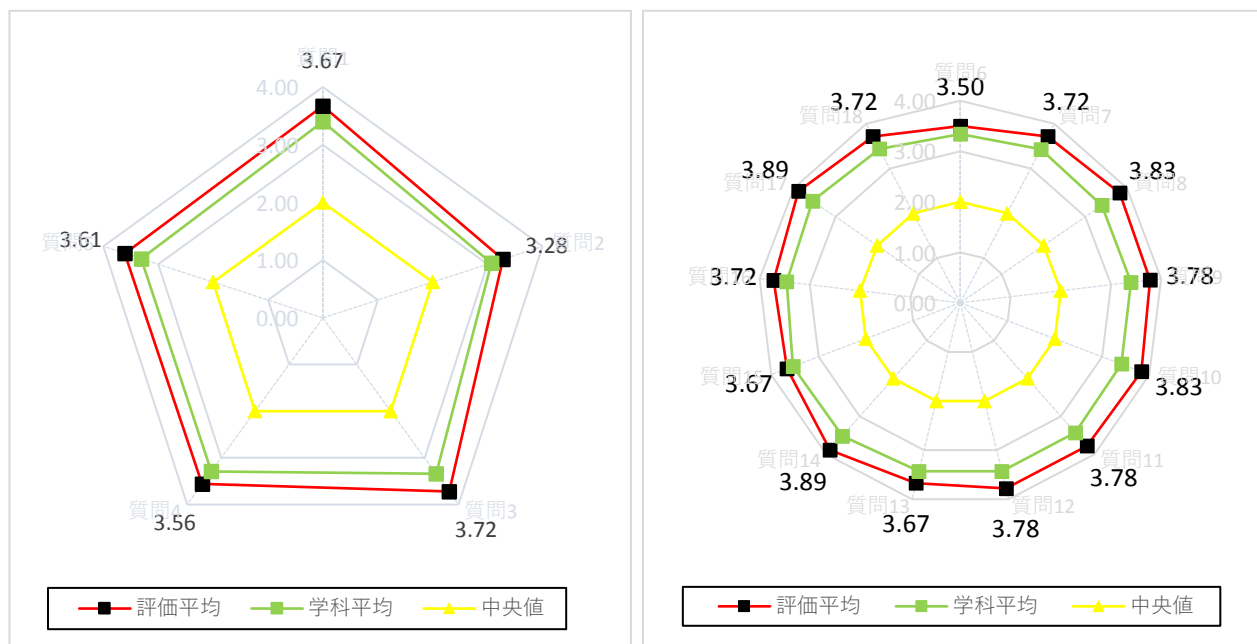
回答者は59名中19名である。それも、偏っており、健栄と看護の学生の回答は皆無である。社福／スポーツの学生が、29名中5名回答し、心理カウンセリングは15名中14名の回答である。全般に、自己評価はまあまあの評価であるが、授業のやり方については、大変厳しい。1や2の評価をつける者もかなりの数に上り、半数以上の項目もあるほどだ。これまでのこの授業科目の学生と何か大きく違っていると感じた。それがどこにあるのか、よく反省しなければならない。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の厳しい評価を糧として、深く反省し、良い授業を工夫し、追求していきたい。この科目は、複数の学科の学生を対象に行う授業であることに配慮して、今後も、学生の主体的な参加を中心に、学生と協力・協議しながら、効果的な授業のやり方を工夫していく。また、学生との信頼関係の構築にも努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		教育原論	81名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体的に平均並みである。

(3) 次年度に向けての取り組み

居眠り・私語対策を充実させる。

質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか」および質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか」の数値がやや低いので、初回のオリエンテーションをより丁寧に行なう。

質問15「公平に学生に対応しましたか」の数値がやや低いので、授業中まんべんなく発問するように気をつける。